

經 濟 学 部

履 修 要 項

平 成 2 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 13日(金) }
- 9日(月) } 在校生身分証明登録
- 19日(木) }
- 9日(月) } 在校生成績発表
- 10日(火) }
- 9日(月) } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 10日(火) } 受付(学部2年次生)
- 11日(水) }
- 20日(金) } 在校生成績質疑応答
- 14日(土) } 前期授業開始
- 23日(月) } 履修届受付(学部・短大)
- 26日(木) } (学部により受付日が異なる)
- 5月7日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 11日(金) }
- 25日(金) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月11日(月) }
- 7月6日(金) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米文>・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)
- 12日(木) }
- 13日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- 19日(木) }
- 19日(木) } 前期授業最終日
- 20日(金) }
- 21日(土) } 前期終了科目定期試験
- 23日(月) } 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 22日(日) }
- 26日(木) } 体育実技Ⅱ集中授業コース(学部2年次生)
- 26日(木) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

後 期

- 9月7日(金) } 補講期間
- 14日(金) }
- 17日(月) } 後期授業開始
- 17日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 18日(火) }

- 25日(火) } 前期終了科目追・再試験(授業平常どおり)
- 10月1日(月) }
- 10月2日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 5日(金) }
- 3日(水) } 専攻コース指定届受付
- 4日(木) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(月) } 第108回開校記念日(全学休業)
- 24日(水) }
- 26日(金) } 転部・転科試験願書受付
- 11月16日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(土) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 10日(月) }
- 3日(月) }
- 7日(金) } 編・再入学願書受付
- 19日(水) } 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(水) } 体育実技Ⅱ集中授業コース(学部2年次生)
- 23日(日) }
- 20日(木) } 編・再入学試験

平成3年

- 1月8日(火) } 後期授業再開
- 14日(月) } 後期授業最終日
- 16日(水) }
- 25日(金) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) }
- 2月4日(月) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 5日(火) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 6日(水) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 18日(月) }
- 22日(金) } 体育実技Ⅱシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 19日(火) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験
- 20日(水) } 験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 25日(月) }
- 3月2日(土) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1~3年次生)
- 19日(火) } 卒業者名簿発表
- 25日(月) } 卒業式

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が本学経済学部の学生として4年間の学園生活を過ごすために必要であると思われる学習上の基本的事項をまとめたものである。

経済学部における教育の主たる目標はすぐれた職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の発展に貢献することにある。そのために諸君は、専門的な知識のほかには教養ある社会人として必要な人文・社会・自然について深い理解をもつことが要求される。

また、わが国経済の著しい国際化の傾向にともない、今後国際交流が一段と推進されると思われるが、国際社会で活躍するにはなによりも外国語を十分マスターしておくことが必要である。

諸君がこうした目標を達成できるように、本学部の教育課程は「一般教育科目」「外国語科目」「保健体育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」「他学部科目」および「随意科目」から構成されており、4年間にわたり幅広く、体系的に学習できるよう十分配慮されている。

さらに経済学部の教育制度上の特徴は、「専門科目」に大幅な選択制を導入するとともに、少人数によるゼミナールを数多く開講している点である。こうした選択制とゼミナールによる教育を重視しているのは、学生諸君の自主的な学習を尊重することにより諸君の能力を効果的に発揮させ、個性豊かな人間を形成することを教育の最終目標としているためである。

諸君はこうした経済学部の教育課程の特質を十分に理解し、将来どのような局面に遭遇しても問題点の所在を的確に把握し、その解決方法を自らの努力と判断で見いだして行く能力を身につけてもらいたいと念じている。

最後に、この「履修要項」を熟読し、4年間の貴重な大学生活を計画的に、しかも悔いのない充実したものとして送られることを切に期待するものである。

駒沢大学経済学部

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位計算 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 学 士 号 (5)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (6)
2. 外国語科目の履修方法 (8)
3. 保健体育科目の履修方法 (12)
4. 基礎教育科目の履修方法 (13)
5. 専門教育科目の履修方法 (13)
6. 他学部科目の履修方法 (17)
7. 随意科目の履修方法 (19)
8. 再履修科目の履修方法 (19)
- ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (19)
- ※ 授業科目のコード番号について (20)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (21)
2. 履修届記入上の注意 (22)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (23)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (24)
2. 中間試験 (24)
3. 追・再試験 (24)
4. 受験心得 (25)
5. 成績評価・単位認定 (25)
6. 試験時間 (25)

VI	進級について	(26)
VII	教職課程・資格講座	(27)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(28)
	2. 授業時間	(28)
	3. 事務室の事務受付時間	(28)
	4. 休 講	(28)
	5. 掲 示	(28)
	6. 問い合わせ	(28)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(29)
	2. 休 学	(29)
	3. 復 学	(29)
	4. 退 学	(30)
	5. 除 籍	(30)
	6. 懲 戒	(30)
	7. 編 入 学 (学士入学)	(30)
	8. 再 入 学	(30)
	9. 転部・転科	(30)
	10. 留 学	(31)
	11. 学生氏名・保証人	(31)
	12. 学生番号	(31)
X	既修得単位の認定について	(32)
XI	届書・願書について	(33)
XII	各種証明書取扱い窓口	(34)
	試験実施規程 (抜粋)	(35)
	講義内容	(37)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | | |
|-----------|--------------------|-------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) | …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) | …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) | …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) | …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) | …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) | …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) | …………… | 選択科目 |

※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 平成元年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	} 136以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	5	20	80	
	選択	15	60		

B. 昭和63年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	} 138以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	80	
	選択	16	64		

経済学科

C. 昭和60～62年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

D. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

商 学 科

A. 平成元年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	32	136以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	80	
	選 択	16	64		

B. 昭和63年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	32	138以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	3	12	80	
	選 択	17	68		

商 学 科

C. 昭和60～62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

D. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

2. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書が授与され、次の学士の称号が与えられる。

経済学部 { 経済学科 …… 経済学士
商 学 科 …… 商 学 士

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2次年の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

A. 昭和63年度以降入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	} 合計8科目 32単位
社会分野	2科目	計8単位	
自然分野	2科目	計8単位	

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考		
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修） 宗教学Ⅱ（2年次必修） 哲学 倫理 文藝 歴史 地理 学（日本史） 学（世界史） 学（現代史）	4 4 4 4 4 4 4 4 4	} 「宗教学Ⅰ」「宗教学Ⅱ」を必修科目とする。	16	32	取る憲法を学ぶと許す「必修」は免よはる。教員も法を		
社会分野	法（日本国憲法） 政治学 社会学 文化学 社会科 学概論 憲法（2単位を含む） 政治学 社会学 社会学 社会学 社会学 社会学	4 4 4 4 4 4 4 4					} 2科目選択必修	8
自然分野	自然科学概論 数学 天文学 コンピュータ 人物生 物理学 天文概論 社会学 社会学 社会学 社会学 社会学	4 4 4 4 4 4 4 4 4						

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
 ※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

B. 昭和62年度以前入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	}	合計9科目 36単位
社会分野	3科目	計12単位		
自然分野	2科目	計8単位		

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学 I (1年必修) 宗教学 II (2年必修) 哲学 倫理 歴史学 (日本史) 歴史学 (世界史) 歴史学 (世界史) 歴史学 (世界史)	4	「宗教学 I」の2科目を「宗教学 II」を選択科目として修得。	16	36	
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
社会分野	法社会学 (日本国憲法) 政治社会学 法社会学 社会心理学 法社会学 (憲法) 法社会学 (憲法) 法社会学 (憲法)	4	3科目選択必修	12	36	取る憲法を学ぶと法修士の免許を免よる。
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
自然分野	自然科学概論 数学概論 心理学概論 物理学概論 化学概論 生物概論	4	2科目選択必修	8	36	
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				
		4				

- ※「宗教学 I」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
- ※「歴史学（日本史）」旧「歴史学」。歴史学の単位を修得した学生は履修できない。
- ※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、平成元年度以降入学生の学生からは、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2(2)	4(4)	2(2)	4(4)	4(4)	8(8)
2年次	2(2)	4(4)	2(2)	4(4)	4(4)	8(8)
3年次	-(1)	-(2)	-	-	-(1)	-(2)
計	4(5)	8(10)	4(4)	8(8)	8(9)	16(18)

※()内の数字は昭和63年度以前入学生適用

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と入学手続の際に指定した外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ(定員40名)」または「英語LLⅠ(定員30名)」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

〔名称変更科目〕

○新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

○成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新名称		旧名称
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	I A	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	I B	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }

※ 英語科目内容

英語 I A : 意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 I B : 講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ L L ……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 I B」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語（英語と他の1ヵ国語）を、それぞれII A・II Bの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 II A	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 II A	2	} 1年次で履修した1ヵ国語2科目必修
英 語 II B	2		ド イ ツ 語 II B	2	
		フ ラ ン ス 語 II A	2		
		フ ラ ン ス 語 II B	2		
		中 国 語 II A	2		
		中 国 語 II B	2		
		ス ペ イ ン 語 II A	2		
		ス ペ イ ン 語 II B	2		
		ロ シ ア 語 II A	2		
		ロ シ ア 語 II B	2		

〔名称変更科目〕

○新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

○成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新名称		旧名称
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	II A	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	II B	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }

※ 英語科目内容

英語 II A : 意志表現と意志伝達能力を発展させ、応用力を修得する。

英語 II B : 講読を通し、はば広い教養を修得する。

3年次の履修（昭和63年度以前入学生のみ適用）

1・2年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれか1ヵ国語を第1外国語とし、外国語「Ⅲ」（旧名称－3A）を1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅲ	2		中 国 語 Ⅲ	2	
ド イ ツ 語 Ⅲ	2		ス ペ イ ン 語 Ⅲ	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅲ	2		ロ シ ア 語 Ⅲ	2	

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称		旧 名 称
〔英語, ドイツ語, フランス語〕	Ⅲ	〔英語, ドイツ語, フランス語〕
〔中国語, スペイン語, ロシア語〕	—	〔中国語, スペイン語, ロシア語〕
3A		

※ 英語科目内容

英語Ⅲ：1年次、2年次の英語力を基礎とし現代英語を通して国際的視野を養う。

- 平成2年度で外国語「Ⅲ」（旧名称－3A）を単位修得できなかった者は、平成3年度履修する際には（P.13）の「時事外国語」履修方法と同じ手続きを必要とする。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.19参照）。
- ニ. 2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

昭和63年度以前入学生は

2年次の7月6日（金）～12日（木）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から3年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生には、旧カリキュラムが適用される。

A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は火曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前 期 ま た は 後 期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

経済学科

必修科目

A. 平成元年度以降入学生適用（5科目20単位）

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4		時事外国語	4	
経済原論Ⅱ	4				
経済史	4				
経済政策	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から選択履修することが望ましい。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- 期 日 4月のオリエンテーション期間中実施予定
- 場 所 } 未定 実施前に掲示板にて指示、および平成3年度履修要項に記載する。
- 時 間 }
- 方 法 履修届用紙に受講許可印を押印してもらう。（先着順にて定員締切あり）
- 持参する物 履修届用紙（成績発表時配布）、学生証、授業時間表

③ 教務部へ履修届提出

所定期日に履修届を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（4科目16単位）

2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
経 済 原 論 I	4	
経 済 原 論 II	4	
経 済 史	4	
経 済 政 策	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（60単位以上）
- B. 昭和63年度以降入学生適用（64単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（68単位以上）

商 学 科

必 修 科 目

A. 平成元年度以降入学生適用（4科目16単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		時 事 外 国 語	4	
2 年 次 必 修					
商 学 総 論	4				
経 営 学 総 論	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から選択履修することが望ましい。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- 期 日 4月のオリエンテーション期間中実施予定
- 場 所 } 未定 実施前に掲示板にて指示、および平成3年度履修要項に記載する。
- 時 間 }
- 方 法 履修届用紙に受講許可印を押印してもらう。（先着順にて定員締切あり）
- 持参する物 履修届用紙（成績発表時配布）、学生証、授業時間表

③ 教務部へ履修届提出

所定期日に履修届を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（3科目12単位）

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（64単位以上）
- B. 昭和63年度入学生適用（68単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（72単位以上）

選 択 科 目 一 覧 (経 済 ・ 商 学 科 共 通)

1 年 次 選 択			3 ・ 4 年 次 選 択			3 ・ 4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4	※イ	経 済 学 史 II	4		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	4	
2 年 次 選 択			価 格 理 論	4		ソ ビ エ ト 経 済 論	4	
経 済 原 論 I	4	※ロ	国 民 所 得 論	4		商 業 政 策	4	
経 済 原 論 II	4	※ハ	景 気 変 動 論	4		マ ー ケ テ ィ ン グ	4	
統 計 原 論	4		日 本 経 済 史	4		貿 易 論	4	
経 済 史	4	※ニ	経 済 地 理	4		貿 易 実 務	4	
経 済 政 策	4	※ニ	国 際 経 済 論	4		証 券 市 場 論	4	
商 学 総 論	4	※ホ	農 業 政 策	4		保 険 論	4	
商 業 史	4	休 講	工 業 政 策	4		交 通 論	4	
経 営 学 総 論	4	※ヘ	財 政 学	4		商 品 学	4	
簿 記 論	4		財 政 政 策	4	※ト	経 営 管 理 論	4	
財 務 会 計 論	4		金 融 論	4		労 務 管 理 論	4	※チ
憲 法	4		国 際 金 融 論	4		財 務 管 理	4	
民 法 一 部	4	総 則 物 権	銀 行 論	4		原 価 計 算 論	4	
演 習 I	4		社 会 政 策	4		会 計 監 査 論	4	
3 年 次 選 択			労 働 経 済 論	4	休 講	管 理 会 計 論	4	
原 書 講 読 I	4		中 小 企 業 論	4		税 務 会 計 論	4	
演 習 II	4		人 口 論	4		民 法 二 部	4	債 権
4 年 次 選 択			教 育 経 済 論	4		商 法 一 部	4	総 則 会 社 法
原 書 講 読 II	4		日 本 経 済 論	4		商 法 二 部	4	商 行 為 ・ 手 形 ・ 小 切 手 法
演 習 III	4		ア ジ ア 経 済 論	4				
3 ・ 4 年 次 選 択			中 国 経 済 論	4		労 働 法	4	
経 済 学 史 I	4		ア メ リ カ 経 済 論	4		経 済 法	4	

※イ. 「会計学総論」経済学科の学生に限り適用。簿記学（「簿記論」ではない）の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ. 「経済原論Ⅰ」旧「経済原論」。商学科の学生に限り適用。

※ハ. 「経済原論Ⅱ」商学科の学生で昭和58年度以降入学生に限り適用。

※ニ. 「経済史」・「経済政策」商学科の学生に限り適用。

※ホ. 「商学総論」経済学科の学生に限り適用。

※ヘ. 「経営学総論」旧「経営経済学」。経済学科の学生に限り適用。

※ト. 「財政政策」旧「財政政策論」。財政政策論の単位を修得した学生は履修できない。

※チ. 「労務管理論」旧「労務管理」。労務管理の単位を修得した学生は履修できない。

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.18参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

(1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

(2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.19）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設 学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考	開設 学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
禪 学 科	禪 学 特 講 I	4	3・4		歴 史 学 科	日 本 仏 教 史 II	4	3・4	休 講
	禪 学 特 講 II	4	3・4			日 本 史 特 講 VII (近 代)	4	3・4	
	禪 学 特 講 III	4	3・4			東 洋 史 特 講 X (近・現 代)	4	3・4	
	禪 学 特 講 IV	4	3・4			西 洋 文 化 史 I	4	3・4	
	禪 学 思 想 史	4	3・4			考 古 学 特 講 III	4	3・4	(隔 年 開 講)
	哲 学 史	4	3・4			歴 史 哲 学	4	3・4	
仏 教 学 科	印 度 仏 教 史	4	3・4		哲 学 史	4	3・4		
	中 国 仏 教 史	4	3・4		日 本 民 俗 学	4	3・4		
	日 本 仏 教 史	4	3・4		マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	3・4		
	日 用 経 典	4	3・4		産 業 社 会 学	4	3・4		
	仏 教 美 術	4	3・4		都 市 社 会 学	4	3・4		
国 文 学 科	現 代 哲 学 概 説	4	3・4		社 会 福 祉 発 達 史	4	3・4		
	上 代 文 学	4	3・4		行 政 法 II	4	3・4		
	中 世 文 学	4	3・4		民 法 IV (1)	4	3・4		
	近 世 文 学	4	3・4		民 法 IV (2)	4	4		
	近 代 文 学	4	3・4		比 較 憲 法	4	3・4		
英 米 文 学 科	中 国 文 学	4	3・4		地 方 自 治 法	4	3・4		
	英 文 学 特 講 I	4	3・4		国 際 関 係 論	4	3・4		
	英 文 学 特 講 II	4	3・4		西 洋 政 治 史	4	3・4		
	英 文 学 特 講 III	4	3・4		宣 伝 広 告 論	4	3・4		
	英 文 学 特 講 IV	4	3・4		比 較 社 会 構 造 論	4	3・4	休 講	
	英 文 学 特 講 V	4	3・4		政 党 論	4	3・4		
	英 文 学 特 講 VI	4	3・4		経 営 学 史	4	3・4		
	英 米 演 劇 特 講	4	3・4		国 際 経 営 論	4	3・4		
	米 文 学 特 講 I	4	3・4		経 営 統 計	4	3・4		
	米 文 学 特 講 III	4	3・4		経 営 分 析 論	4	3・4		
地 理 学 科	時 事 英 語	4	3・4		短 大 国 文 学 科	国 文 講 読 I (上 代)	2	3・4	
	地 質 学	4	3・4			国 文 講 読 II (中 古)	2	3・4	
	気 候 学	4	3・4			国 文 講 読 III (中 世)	2	3・4	
	人 口 地 理 学	4	3・4			国 文 講 読 IV (近 世)	2	3・4	
	応 用 地 理 学 I	4	3・4			国 文 講 読 V (近・現 代)	2	3・4	
	都 市 地 理 学	4	3・4			国 文 特 講 V (近・現 代)	4	3・4	
短 英 文 大 科	文 化 地 理 学	4	3・4		短 大 国 文 学 科	英 文 タイ プ ラ イ テ ィ ン グ II	2	3・4	
					短 大 国 文 学 科	時 事 英 語	4	3・4	
					短 大 国 文 学 科	計 算 機 言 語 概 論	2	3・4	半 期 科 目
						臨 床 放 射 線 特 論 I	2	3・4	半 期 科 目
						応 用 計 測 学	2	3・4	半 期 科 目

※「計算機言語概論」については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
比較思想特講	4		ロシア語 F	2		中国語FLL(初級)	2	
英会話Ⅱ	2		英語 L L Ⅱ	2		中国語FLL(中級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
フランス語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
スペイン語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	

※ 「英会話Ⅱ」・「英語 L L Ⅱ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。

注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語（3Aは除く）・体育実技Ⅰ（昭和59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお、外国語科目を再履修する場合は、2年度に名称変更があったので、新名称科目の再履修クラスで履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.31参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	3
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要な事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数（制限科目数）は原則として次のとおりとする。

A. 平成元年度以降入学生適用

年次	新履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	14科目	—
2年次	5科目以上12科目以内	制限内
3年次	5科目以上11科目以内	制限内
4年次	5科目以上14科目以内	制限内

B. 昭和63年度以前入学生適用

年次	新履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	15科目	—
2年次	5科目以上12科目以内	制限内
3年次	5科目以上12科目以内	制限内
4年次	5科目以上14科目以内	制限内

イ. 体育実技Ⅱ，課程・講座科目，随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 制限範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.18参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日			
授業科目	科目コード	担当	担当コード
一 時 限	ドイツ語 1 G	312201	百 済 879
二 時 限	保健体育理論(前期)	314201	長 濱 A10
	保健体育理論(後期)		622
三 時 限	宗 教 学 I	310101	平井(俊) 735
四 時 限	論 理 学	310203	國 嶋 306
五 時 限	自然科学概論	310401	宇和川 104

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科目名	科目コード	担 当	担 当 コード
(1)	1		ドイツ語 1 G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	3 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	3 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。
- (1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合
 - (2) 時限を誤って記入した場合
 - (3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)
 - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

経済学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			14

商学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			14

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月21日（金）～22日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（火）～2月5日（月）に実施される。
 - ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
 - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.35）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

A. 平成元年度以降入学生適用

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	86単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。14科目を履修しても卒業所要単位を取得できない場合。

B. 昭和63年度以前入学生適用

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～16単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、17単位以上不足している場合。

VII 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	"	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	"	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	"	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日

(2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

∴ ∴ ∴
 学 学 入
 部 科 学
 一
 連
 番
 号
 (西
 度
 曆)

(例) 1990年度入学・経済学部
経済学科12番の場合

3	1	0	0	1	2
---	---	---	---	---	---

∴ ∴ ∴
 経 経 一
 済 済 九
 学 学 〇
 部 科 年
 一
 九
 〇
 年
 入
 学
 12
 番

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、編入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位は、転部・転科が許可された時に、提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ホ. 留学者の単位認定

本学より外国の協定校・認定校へ派遣された学生で、留学先の成績証明書・授業内容等をもとに当該教授会で認定した授業科目（専門選択科目）の単位は、卒業所要単位の算入される。

XI 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類		要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照） 	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県 名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡を証明できる書類（写し可）添付 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 { 英文証明書 } 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書（卒業生のみ） （教職，司書教諭，学芸員，社会教育，社会福祉）		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し，手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上，取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は，6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので，掲示に注意し，十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目	(41)
保健体育科目	(48)
随意科目	(49)
基礎教育科目	(52)
専門教育科目	(53)
他学部履修科目	(69)

[巻末]

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野	
宗教学Ⅰ	(池田 魯参)41
宗教学Ⅰ	(田上 太秀)41
宗教学Ⅰ	(吉津 宜英)41
宗教学Ⅰ	(末光 愛正)41
宗教学Ⅰ	(袴谷 憲昭)41
宗教学Ⅰ	(片山 一良)42
宗教学Ⅰ	(再クラス) (岡部 和雄)42
宗教学Ⅰ	(再クラス) (奈良 康明)42
宗教学Ⅱ	(中野 東禅)42
宗教学Ⅱ	(永井 政之)42
宗教学Ⅱ	(伊藤 秀憲)42
宗教学Ⅱ	(大谷 哲夫)42
宗教学Ⅱ	(田中 良昭)42
哲学	(大石 紀一郎・久保 陽一)43
論理学	(田島 節夫・小宮山 隆)43
倫理学	(國嶋 一則)43
文学	(高田 知波)43
文学	(野中 雅行)43
歴史学	(日本史) (木槻 哲夫)43
歴史学	(日本史) (立川 章次)43
歴史学	(世界史) (茂澤 方尚)44
科学史	(小宮山 隆)44
社会分野	
法学憲法	(前田 英昭)44
法学憲法	(馬越 道夫)44
政治学	(鬼柳 勝一)44
政治学	(早川 純貴)44
社会学	(橋爪 敏)44
社会学	(岩上 真珠)45
統計学	(飯塚 仁之助)45
地理学	(小田 匡保)45
地理学	(川口 太郎)45
文化人類学	(小川 順敬)45
社会科学概論	(阿部 弘)45
自然分野	
自然科学概論	(宇田川 正人)45
自然科学概論	(漆原 和子)46
数学	(宮寺 功)46
数学	(三好 重明)46
心理学	(牧野 晋)46
心理学	(鈴木 順一)46
心理学	(高橋 良博)46
心理学	(森山 敏文)46
天文学	(篠原 正雄)47
コンピュータ概論	(三好 重明)47
人類学	(斎藤 成也)47
物理学	(篠原 正雄)47
生物学	(富山 清升)47

保健体育科目

保健体育理論	(光永 吉輝)48
保健体育理論	(館岡 儀秋)48
保健体育理論	(再クラス) (長濱 友雄)48
保健体育理論	(再クラス) (森本 葵)48

随意科目

比較思想特講	(佐々木 宏幹)49
比較思想特講	(洗 建)49
英会話Ⅱ	(P. A. ベンディネリイ・ J. G. ギャリソン・T. J. コーガン・ J. W. グリフィス・M. ピアス)49
英語LLⅡ	(T. J. コーガン・大庭 直樹)49
ドイツ語F	(松本 洋子)49
ドイツ語FLL	(初級) (P. ジャコムツィ)49
ドイツ語FLL	(中級) (松岡 晋)49
フランス語F	(遠山 博雄)50
フランス語FLL	(初級) (小玉 齊夫)50
フランス語FLL	(初級) (M. マルタン)50
フランス語FLL	(中級) (M. マルタン)50
中国語F	(釜屋 修)50
中国語FLL	(初級) (釜屋 修)50
中国語FLL	(中級) (松本 丁俊)50
スペイン語F	(M. アルマラス)50
スペイン語FLL	(初級) (ホワン・ナバロ)50
スペイン語FLL	(中級) (ホワン・ナバロ)51
ロシア語F	(杉山 秀子)51
ロシア語FLL	(初級) (池田 ガリーナ)51
ロシア語FLL	(中級) (池田 ガリーナ)51

基礎教育科目

経済学概説	(大石 雄爾)52
経済学概説	(福原 好喜)52
経済学概説	(安元 稔)52
経済学概説	(小杉 修二)52
経済学概説	(山縣 弘志)52

専門教育科目

1年次必修科目(商学科)	
会計学総論	(遠藤 孝)53
会計学総論	(加藤 利安)53

1 年次選択科目 (経済学科)	
会計学総論 (竹林 代嘉)	53
2 年次必修・選択科目	
経済原論Ⅰ (大石 雄爾)	53
経済原論Ⅰ (阿部 弘)	53
経済原論Ⅰ (齊藤 正)	54
経済原論Ⅱ (浅野 克巳)	54
経済原論Ⅱ (小林 進)	54
経済原論Ⅱ (荒木 勝啓)	54
経済政策 (石井 啓雄)	54
経済政策 (宮脇 孝久)	54
経済史 (安元 稔)	55
経済史 (殿村 晋一)	55
商学総論 (大吹 勝男)	55
経営学総論 (寺中 良二)	55
2 年次選択科目	
統計原論 (吉野 紀)	56
簿記論 (島崎 規子)	56
財務会計論 (遠藤 孝)	56
憲法 (齊藤 寿)	56
民法一部 (林 幸司)	56
3・4 年次選択科目	
経済学史Ⅰ (福原 好喜)	57
経済学史Ⅱ (有井 行夫)	57
価格理論 (荒木 勝啓)	57
国民所得論 (吉野 紀)	57
景気変動論 (西村 允克)	57
日本経済史 (木村 健二)	58
経済地理 (上坂 修夫)	58
国際経済論 (鄭 章淵)	58
農業政策 (浅田 喬二)	58
工業政策 (大林 弘道)	58
財政学 (西村 紀三郎)	59
財政政策 (里中 恆志)	59
金融論 (渋谷 隆一)	59
国際金融論 (齊藤 寿彦)	59
銀行論 (本間 靖夫)	59
社会政策 (光岡 博美)	60
中小企業論 (三井 逸友)	60
人口論 (森岡 仁)	60
教育経済論 (谷敷 正光)	60
日本経済論 (森 武麿)	60
アジア経済論 (小林 英夫)	61
中国経済論 (小杉 修二)	61
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	61
ヨーロッパ経済論 (清水 卓)	61
ソビエト経済論 (山縣 弘志)	61
商業政策 (岩下 弘)	61
マーケティング (曾我 信孝)	61
貿易論 (古沢 紘造)	62
貿易実務 (太田 正孝)	62
証券市場論 (澤田 精次)	62
保険論 (石名坂 邦昭)	62
交通論 (石井 彰次郎)	62
商品学 (石崎 悦史)	62
経営管理論 (百田 義治)	63
労務管理論 (石井 脩二)	63
財務管理 (野口 祐)	63
原価計算論 (加藤 利安)	63
会計監査論 (飯岡 透)	63
管理会計論 (中原 章吉)	63
税務会計論 (市川 深)	64
民法二部 (水辺 芳郎)	64
商法一部 (荒木 正孝)	64
商法二部 (島原 宏明)	64
労働法 (深谷 信夫)	64
経済法 (川井 克倭)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (有井 行夫)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (石井 脩二)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (岩下 弘)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (大吹 勝男)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (小林 英夫)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (齊藤 正)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (瀬戸岡 紘)	65
原書講読Ⅰ・Ⅱ (曾我 信孝)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (古沢 紘造)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (光岡 博美)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (百田 義治)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (三井 逸友)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (大石 雄爾)	66
原書講読Ⅰ・Ⅱ (福原 好喜)	67
原書講読Ⅰ・Ⅱ (清水 卓)	67
原書講読Ⅰ・Ⅱ (小杉 修二)	67
原書講読Ⅰ・Ⅱ (山縣 弘志)	67

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

池田魯参

仏教や禅の文化は、現代社会でも様々な形で影響を及ぼしている。講義では、世界の諸宗教と比較しながら、禅仏教の特質を明らかにし、広く宗教の意味を考察したい。21世紀に向けて、宗教の意義が問われている今日、流動する国際的な宗教文化の状況をも視野に入れ、本学の建学の根本である禅仏教が、どのような問題解決の方法を示すことができるか、今後の展望を考察し、受講生諸君の自己究明と自己実現のために、少しでも役立てて頂ければ幸いである。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学 I』（更生社）
¥1,950

〔参考書〕駒大宗教学会『宗教学ハンドブック』（世界書院）¥1,400

宗教学 I

田上太秀

前期は宗教としての仏教の思想と歴史をインドに限定して講義し、後期は宗教とは何かについて宗教学の立場から講義する。

〔教科書〕田上太秀『仏教の世界』（三修社）
¥2,600

〔参考書〕脇本平也『宗教を語る』（日新出版）
田上太秀『四十二の教訓』（日新出版）

宗教学 I

吉津宜英

まず初めに宗教学は人文科学に属する学問体系であることを確認しておきたい。つまり、これは文学や歴史などと同様に人間のあり方、人間の生き方を考えるのである。そして、この世界の中に

本当に多くの宗教が歴史上出現し、また現存しているという事実は、それだけ人間存在の複雑さ、深さ、そしてその歴史の重さを表わしている。この講義は世界の諸宗教の多様性を知り、その中で仏教の立場と特色を把握していくことを目的とする。特に日本の歴史の中で仏教の果たした役割を考え、現代の我々がこの政治経済社会の中でいかにその伝統を認識するかをも問題にしたい。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I

末光愛正

宗教学に対する一般的な教養知識を概説し、宗教とは何かということ講義する。後期には仏教の教義歴史を中心に進める。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I

袴谷憲昭

現今の知識人の中には、美しい自然の日本を謳歌し、その中で育った「和」の思想を、欧米の破壊主義に対する、我が国独自の平和思想として持ち上げんとする時局迎合的発言が強まってきている。しかし、宗教とは、時局迎合的精神主義ではなく、むしろ批判でなければならないと私は考えている。しかるに、日本においては、ほとんど根着くことのなかった「批判」の意味を、デカルトの『方法序説』を読むことによって詳細に具体的に検討してみることにはしたい。それに先立って、あるいはそれと平行して、下記の拙著の「序に於て」に基づきながら、「批判の哲学」対「場所の哲学」の対峙の意味を洋の東西にわたって概観してみたいと思っている。

〔教科書〕デカルト著・落合太郎訳『方法序説』（岩波文庫）¥410

〔参考書〕袴谷憲昭著『批判仏教』（大蔵出版）
定価未定

宗 教 学 I

片 山 一 良

宗教とは何か?その構造と機能とは何か、宗教が個人にそして社会にどう関わっているか、そうした事柄を我々の身近な例から明らかにしつつ、広く「大人の間人学」としての宗教学を考えてみたい。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教のおしえ』（東京書籍）

宗 教 学 II

中 野 東 禅

自己が存在するというのはどういうことだろうか。それは人間のご都合以前の事実として与えられているものであるといえよう。その上で自己の意識活動や人間関係がなりたっている。禅とはそうした自己存在の本質を見きわめ、そこへおちついてゆくものである。

近代の合理主義精神はここ十年ほどの諸分野におけるゆきづまり状況から、超合理なるもの靈的なものへと逃避しようとしている。しかし、その背景には現代社会の不安や恐怖心がある。人間の合理主義で胡塗するのでもなく、超合理なる靈的世界に逃避するのでもなく、存在の本質に出会

う禅を学んでゆきたいものである。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学II』（更生社）
¥1,950

宗 教 学 II

永 井 政 之

宗教学のIのあとを承け『禅』について、その歴史や思想を学びつつ、ますます複雑化する現代に宗教、就中、禅はどのような面でその可能性を持ちうるのか。学生諸君とともに考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学II』（更生社）¥1,950
〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

インドにおける禅定、中国での禅宗の成立と発展、そして日本への流伝（特に道元禅師とその門流を中心に）と言った、禅の歴史を通観し、そこに現われた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を考察したい。

〔教科書〕『宗教学II』（更生社）¥1,950

宗 教 学 II

大 谷 哲 夫

本講座は「宗教学I」を基盤として、仏教における禅の地位、禅の歴史、公案の禅と只管打坐の禅、現代思想と禅等々を概説し、講義の中心を特に現代人の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、適宜、禅匠の生き方・その言葉なりを通して理解し学んでゆくことにその主眼をおく。

また、プリント等を配布する。
〔参考書〕適宜に指示する。

宗 教 学 II

田 中 良 昭

宗教学Iをふまえ、宗教としての禅にはいかなる特色があるか、その概要を、思想、歴史、実践の各方面から講ずる。

〔教科書〕『宗教学II』（更生社）
〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲 学

大 石 紀一郎・久 保 陽 一

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

論 理 学

田 島 節 夫・小宮山 隆

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探求する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

文 学

高 田 知 波

夏目漱石の作品を読んでいく。『坊っちゃん』『三四郎』『それから』『ころ』をとりあげる予定である。

〔教科書〕夏目漱石著『坊っちゃん』『三四郎』『それから』『ころ』
（いずれも新潮文庫版）

文 学

野 中 雅 行

言語のもつ価値としての〈認識〉および〈詩（詩的情感）〉、この二つはかならず人間の深層機能と言語作用のなぞとが、ふかくかかわりあって生まれてくるものだ。

講義では、はじめに人間の意識における諸々の深層機能について論じ、後期あたりより日本現代作家・詩人を例に、価値創出の個々なる機制について論じてみたいと思う。

〔教科書〕教場にて講義の進みに応じ資料を配布する。

歴 史 学（日本史）

木 槻 哲 夫

日本史上の、いくつかの問題を紹介しつつ、史料講読をまじえ、日本社会の発展について考察したい。教科書は特定しない。

歴 史 学（日本史）

立 川 章 次

明治維新史の講義。江戸幕藩体制の崩壊への過程について論述し、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への推移について講義する。

歴史学(世界史)

茂澤方尚

中国古代史、特に先秦時代の西北方の少数民族の動向を軸に、甲骨金文及び詩経、楚辞、春秋左氏伝、史記等の史料を使って講述する。その際、基本的な史料の解題を行う。

〔参考書〕その都度、適宜に指示する。

科学史

小宮山 隆

自然科学の歴史、すなわち人間が自らを取りまく自然をどのように捉え、どのように知を組立ててきたか、その歩みを概観する。言うまでもなく、この歩みは直線的なものではないし、必然の積み重ねでもない。そうした紆余曲折にみちた歩みをたどる中で、今日、われわれに多くの恩恵をもたらしつつも、激しく専門分化が進み、一見したところわれわれにとって近づきたい存在になっている科学のわれわれとの接点を確認し、同時に今日の科学の展開を見通す視点を手にしたいと思う。

〔参考書〕開講時に指定する。

判法等、成文法を講述する。受講者は六法全書を必ず持参すること。

〔教科書〕小林弘人、松村 格編集『法学・憲法』(八千代出版KK) 2,800

〔参考書〕高窪利一・高窪貞一編『現代の法学』(蒼文社)

政治学

鬼柳勝一

政治学上の主要な概念・制度・過程などを経済との関連で具体的にふれたいと思う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕講義進行に従い、列挙する。

政治学

早川純貴

現代日本の政治過程を「自民党」を中心に、この党のこれまでの政策に則して、解説していく。とりわけ「一般消費税」の成立の背景、野党からの批判などをとりあげつつ、自民党政治の特質・問題点を考えてみたい。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

社会分野

法学憲法

前田英昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説するとともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

法学憲法

馬越道夫

前期は、法の目的・法の意義・法の生成と発展・近代法の成立・法と政治経済の関係等、法学の基本問題を講述し、後期は憲法・民法・刑法・裁

社会学

橋爪敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(新版)(学文社)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

社会学

岩上 真珠

個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、家族、近隣、学校、職場といった個人が出合う身近な現象を、誕生から子ども時代、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人の生活史に即して、考察してみたい。講義を通して、個人にとって社会とは何かを理解する“社会学の眼”を養ってもらうことを目指す。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

統計学

飯塚 仁之助

第Ⅰ編 社会統計学の発達過程

第Ⅱ編 社会統計理論

第1章 社会統計学の意義、

第2章 統計集団、第3章 大数の法則、

第4章 大量観察法

第Ⅲ編 統計分析法

第1章 記述統計

第1節 平均、第2節 散布度、

第3節 歪度、第4節 指数、

第5節 相関

第2章 推測統計

地理学

小田 匡保

地理学の大枠を概観した後、特に集落や文化の地理学的見方について述べる。

地理学

川口 太郎

前半は人文地理学の諸分野について概説する。後半は東京および東京大都市圏を対象とした最近の研究を紹介する。中間試験および期末試験を評価の対象とする。

文化人類学

小川 順敬

文化人類学は様々な文化の比較・研究を通じて、「人間の理解」を目ざしています。講義では、文化人類学の目的や特色、基本的な考え方を、「社会構造」「文化とパーソナリティ」「宗教と世界観」などの問題を検討していく中で、明らかにしていきたい。

社会科学概論

阿部 弘

私たちは「市民社会」のなかで生活しているが、しかし「市民」とは何かとあらためて考えてみると日本の社会にはこの概念が無かったこともあって、さっぱり分らない。また「自由社会」のなかでも生活していると言うが、この「自由」というのも何とも奇妙なものである。今日世界は「自由」をめぐる大きく揺れ動いている。これら「市民」・「自由」の概念は関連連して人間の歴史とともに形成されてきたものなのである。

今年度は「市民」概念の歴史的形成的過程に焦点を当ててそのなかで「自由」がどのような形をとって私たち人間の主体的な「権利」の概念となってくるのかを考察する。

自然分野

自然科学概論

宇田川 正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

漆原和子

自然科学の歴史を通して、これまで人類が自然にどのように接してきたかを説明する。さらに現在、高度の科学・技術をもって人類が自然へ働きかけることによってどのような問題をかかえているか考察する。

数 学

宮 寺 功

微分積分を中心として講義を行う。はじめて微分積分を学ぶ人にも十分理解できるよう、その考え方の大要を丁寧に解説する。

〔教科書〕大学自然科学研究会

『改訂 大学の数学』（東京教学社）

数 学

三 好 重 明

数学的思考方の基本的な一側面を理解することを目標とする。そのために、主に幾何学（特にトポロジー）から題材をとって、現代的視点から、問題解決へ向けて数学理論が如何にして構築されていくかを示してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

心 理 学

牧 野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、人間理解への一つの方法として、心理学のとり、科学的アプローチとはどのようなものであるかを考えていく。

日常生活において見られる人間の様々な行動について、従来の研究成果をもとに解説しながら、心理学的なものの見方、考え方がどのようなものであるかを理解してもらいたい。また講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

（八千代出版）

〔参考書〕開講時に指示する。

心 理 学

鈴 木 順 一

心と行動の科学であろうとしている心理学は、人間行動を予測し制御しようとする行動科学や、自己を理解し自己を制御しようとする臨床的アプローチ等として発展しつつある。本講座では、主として臨床心理学やパーソナリティ心理学を中心に、カウンセリングや心理療法を体験実習しながら、自己をみつめ自己を知りセルフ・コントロールできるよう自己成長をめざしてグループ学習を進める。集団学習上、次のルールを守らねばならない。①欠席をしないこと。②時間を守ること。③私語をしないこと。最初の授業で述べる学習方針を良く理解し、自己の責任において主体的に選択すること。自己をみつめ探究している求道者のみが受講されんことを希望する。

〔教科書〕特に指定しません。

〔参考書〕『心理学概説』（八千代出版）

その他は、その都度授業内で指示します。

心 理 学

高 橋 良 博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気も伝えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』

（八千代出版）¥1,500

心 理 学

森 山 敏 文

現代が『心の時代』といわれて久しい。いかにうまく、自分自身をコントロールしていくかが、現代人に与えられたテーマであろう。

この一年間は、臨床心理学という立場から、主に、心の健康とは何かといった側面に焦点をあてながら講義を進めていく。

なお、本年度は、受講者の単位認定に関して、平常点を重視し、毎時間、個人レポートやグループ・レポートの作成、発表などを課す予定である。

興味や関心のある者の受講を歓迎するが、単位取得は極めて厳しいものと心得てほしい。

〔教科書〕講座・サイコセラピー3, 佐々木雄二編『自律訓練法』(日本文化科学社)

〔参考書〕中村昭之編著『心理学概説』(八千代出版)

天 文 学

篠原正雄

現代天文学の描く最新の宇宙像を紹介する。ビッグバン, 膨張宇宙, 銀河, 星の一生, 太陽系の誕生等を学ぶ。

地球とその上の生命は, 百億年を越える宇宙進化の流れの中で生まれてきた。人類の文明の宇宙史的な意味を考え, 地球外文明にまで思いを馳せてみようではないか。

〔教科書〕加藤万里子著

『新・百億年を翔ける宇宙』

(恒星社厚生閣) ¥1,900

コンピュータ概論

三好重明

コンピュータとは何かという問題から始めて, アルゴリズムの設計, アルゴリズムの理論, コンピュータ(ハードウェア)の構造, システムソフトウェア等の基本的部分を学びながら, 実際にプログラムを組んで, コンピュータというものを概観したい。プログラム言語としては, BASIC と Pascalを用いる予定である。

〔教科書〕高作義明著『入門BASIC』

(アスキー出版局) ¥1,500

〔参考書〕小林侘史著『ターボパスカル ver.5

トレーニングマニュアル』

(JICC出版局) ¥2,350

人 類 学

斎藤成也

人類進化を中心に, 自然人類学を講義する。内容は, (1)人類学とはなにか, (2)人間観の変遷, (3)進化論と進化思想の歴史, (4)脊椎動物としてのヒト, (5)哺乳類としてのヒト, (6)霊長類としてのヒト, (7)霊長類の分類と進化, (8)霊長類の生態と行動, (9)化石からみたヒト科の進化, (10)人類進化の独自性, (11)遺伝子の進化と中立説, (12)分子からみ

たヒト科の進化, (13)人種と民族, (14)採集狩猟民の社会, (15)人類集団間の遺伝的近縁関係, (16)海外調査, (17)先史学と年代学, (18)日本の先史時代, (19)日本人の起源と成立, (20)新石器革命と文明の誕生, 等を予定している。

〔教科書〕斎藤成也(編著)『人類学講義資料』

(駒沢書房にて購入すること)

¥500 (予定)

物 理 学

篠原正雄

「エネルギーはいくら使っても少しも減らない」(??エネルギー保存法則)ならば, なぜ「エネルギー問題」などがあるのだろうか? 本講では, 物理学の基本概念である「エネルギー」を軸に, 物理の諸分野を概観する。はじめに, エネルギー概念の出発点となった力学の分野を, 力学的な「力」と「エネルギー」を中心に解説する。次に, 「エネルギー」の流れを追って, 熱, 光, 電磁気, 原子等の分野を探る。最後に, 宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔教科書〕藤城敏幸著『生活の中の物理』

(東京教学社) ¥1,600

生 物 学

富山清升

進化, 遺伝, 生態・自然保護を3つの柱として, 生物学の基本的知識を中心に, 人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題(遺伝子工学, ガン・免疫・環境問題 etc)をまじえ, わかりやすく解説する予定である。

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

光 永 吉 輝

健康・体育に関する一層の理解を深めるとともに、身体・運動・障害という分野において講義を行なう。

〔教科書〕授業時に説明。

保健体育理論

館 岡 儀 秋

健康と体力について全般的知識を深め、特に日常生活の中での、身体活動、スポーツ、レクリエーションの必要性、現代社会においてのスポーツ、レクリエーションの問題点について講義する。

〔教科書・参考書〕授業時に説明する。

保健体育理論（再クラス）

長 濱 友 雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在、我々はそれにどのように対応し、健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが、そのための方策について講義を進める。

保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

オリンピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

随 意 科 目

比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に焦点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕随時指示する。

英 会 話 II

P. A. ベンディネリィ・J. G. ギャリソン
T. J. コーガン・J. W. グリフィス
M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

英語LLII

T. J. コーガン・大庭直樹

英語LLIのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LLIを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

(大庭)前半は英語を耳で聞いて理解する力を集中的に訓練し、後半はTOEFL, TOEIC等の問題に挑戦する。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

ドイツ語F

松本洋子

ドイツの第三帝国に関係する論文、またはドイツ新聞(Die Zeit, Neues Deutschland, Die Frankfurter Allgemeine)の論評などを読みながらドイツ語の読解力をつけて行く、同時にドイツの歴史、社会についての理解を深めて行きたい。テキストはプリントで配布する。

ドイツ語FLL(初級)

P. ジャコムツィ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語FLL(中級)

松岡 晋

本講義はFLL(初級)終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履習してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

フランス語 F

遠山博雄

前期については語学のレベルを中級から上級に引き上げることを第一目的とし、フランス語の文章を欲張らずにじっくりと読んでいきます。テキストは参加する学生諸君の希望を聞いてから、また所属学部を考慮にいれて、第一回の授業の時に決定します。後期に関しては、前期授業による語学知識の深化をふまえて、再度学生諸君と相談の上教材を選択するつもりです。

フランス語 F L L (初級)

小玉齊夫

ビデオ教材を用いて、一年間で何とか「初級」のフランス語が話せ、聞きとれるようにします。文法は、知識としては、有ったほうが有利でしょうが、特に重要とは言いきれません。ふだんと同じような、日本語を話したり聞いたりするのと同じ調子で、授業に(休まず)出てきて、声を出していれば、おのずからフランス語での「おしゃべり」の基礎がつくられていく、はずです。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。
〔教科書〕開講時に指示します。

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。
〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Avec Plaisir 1』

中国語 F

釜屋修

中国語一年以上履修者を対象とする。最近の中国文学作品を精読しつつ、現代中国の民衆像についてともに考えていく。
〔教科書〕開講時にプリント配布。
〔参考書〕その都度紹介する。

中国語 F L L (初級)

釜屋修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話を中心に口語基本表現形式の習得をめざす。ビデオ教材使用。
〔教科書〕開講後指示する。
〔参考書〕開講後指示する。

中国語 F L L (中級)

松本丁俊

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。
〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配りません。

スペイン語 F

M. アルマラス

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に現代ソ連におけるペレストロイカの動向を探っていくたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (初級)

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』(白水社)

ロシア語 F L L (中級)

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』(白水社)

基礎教育科目

経済学概説

大石雄爾

経済学を学ぶ上で重要なことは、現実を生じている経済問題に関心を持ち、なぜそのような問題が生じたのかということをも自分で問うてみることである。この講義では、インフレーション、貿易摩擦、環境問題のような素材をとり上げ、経済学という学問の特徴を明らかにしていく。

〔教科書〕林 直道著『経済学入門』（青木書店）
¥1,700

経済学概説

福原好喜

この講義は学生に経済学についての基礎的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々々の日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。

経済学概説

安元 稔

われわれが現在生活している高度な工業社会が如何なる過程で形成されて来たのかを主として市場経済の形成と変容という観点から考えることがこの講義の主要な目的である。特に最近注目され、再認識されつつある市場経済の形成を、西欧、日本、第三世界を例にして考えて行きたい。テキストのほかにその時々々の重要なトピックスをとりあげ、経済現象を身近なものと感じるような勉強をして行きたい。

〔教科書〕荒井政治著『経済社会史入門』
（東洋経済新報社）¥2,678

経済学概説

小杉修二

心理学者の小此木啓吾氏は言っている。昔のスキーとは山に登る時間が大部分で、滑るのはほんの一瞬である。今日、余暇の増大、リフトの普及によって、スキーとは体力の鍛練から楽しみにとその心理的意味が変わったと。このような変化を生みだした経済の高度成長の時代こそ諸君の育った時代である。

今日それは「成熟」の時代に入り、低成長時代にある。しかし、新製品の開発・販売競争、対外貿易摩擦、「金あまり」、マネーゲーム、土地価格高騰等を生みだしている。

本講義では経済成長とこれらの問題群に諸君の注意を喚起し、現象相互のつながり、その意味について見聞し、考察する。

〔教科書〕新聞をお読みなさい。

〔参考書〕アンドレ・ゴルツ『エコロジスト宣言』
同『エコロジー共働体への道』

（技術と人間社）

P. ワクテル『「豊かさ」の貧困—消費社会を超えて—』

（TBSプラタニカ）

経済学概説

山縣弘志

経済学とは何か、社会科学とは何か。転換期としての現代においては、問いは根本的にならざるをえない。それに答えるためには先人達に学ばなければならないし、対象の変化に対応していかななければならない。現代における経済学の問題は何か、をグローバルな視野で考えていきたい。

〔教科書〕授業の中で指示する。

〔参考書〕授業の中で指示する。

専 門 教 育 科 目

1 年次必修科目（商学科）

1 年次選択科目（経済学科）

会計学総論

遠 藤 孝

「会計学」なるものを全然習ったことのない諸君も「簿記・会計」という言葉ぐらい聞き、知っているとおもう。

会計、とくに企業会計は一般に企業活動、とくに財務活動を一定の形式、内容において計算把握し、それを企業の利害関係者に知らせるものとして、あるいは企業活動を計算把握することによって経営に役立てるものとして理解されている。そして企業活動を計数的、技術的に把握するものとして複式簿記があるわけである。

この講義では会計、とくに企業会計とは何か、企業活動を把える技術的手段である複式簿記の構造、その記帳方式を理解せしめ、企業会計を規制する諸制度の概要、財務諸表についての概要などについて総論的に講義する。

〔教科書・参考書〕講義の最初の時間に指示する。

会計学総論

竹 林 代 嘉

本講義では、企業会計を中心に、会計学全般に関する基礎的知識を学んでもらう。会計とは、経済事象を具体的数字で表現することであるが、特にその技術的基盤となっている複式簿記の学習に、ある程度の時間をかける予定である。また、会計が我々の社会で利用されている状況やその歴史などもとり上げる。

〔教科書〕長谷川・飯岡・島崎著

『企業会計の基礎』（中央経済社）

〔参考書〕簿記教育研究会編

『複式簿記の基礎知識』

2 年次必修・選択科目

会計学総論

加 藤 利 安

企業会計は、記録と計算の技術的体系であると同時に、今日それは、我が国の経済社会の中で一つの制度として存在している。そこでここでは、平易に解説した理論書を使用し、企業会計の役割や機能について、その入門的かつ総論的な知識の習得を目指して講義するつもりである。教科書、参考書は最初の授業時にお知らせする。

試験は、中間と期末と2回行う予定である。

経済原論Ⅰ

大 石 雄 爾

この講義では、資本主義経済一般の基礎的概念および理論を取り扱う。現代資本主義とのかかわりについても、そのつとでできる限り言及してゆきたい。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）

経済原論Ⅰ

阿 部 弘

現在私たちは「資本主義社会」で生活している。この社会の「富」は何であろうか？「価値」を生み出すものが「富」であると考えられている。そ

してそれは「商品」の生産・流通によっているのであるといわれている。さて私たちの社会はその意味で「商品社会」であるともいわれているが、そうすると「資本」とか「商品」とかは一体何なのであろうか？ そしてまた、このような社会のなかですべての人間が「自由」な関係のうちに働いているというのが、はたしてそうなのであろうか。

今年度はこのような問題提起のもとに、「商品」とは何か、「資本」とは何か、それらと私たちの「労働」との関係に焦点を当てて考察をしていく。

経済原論Ⅰ

齊藤 正

本講義はわれわれの生存している資本主義社会がどのような原理にしたがって成り立っているかを示すことによって、人間の諸行為の結果であり、われわれの生活に不可避免的に影響を及ぼす現実の社会的経済的問題に対する関心と理解を深めることを目的とする。

講義内容は以下のとおりである。

1. 資本主義社会の特殊性……他の社会（封建社会、社会主義社会等）と区別される特殊性。
 2. 資本主義社会の運動メカニズム……社会的富の生産と分配のメカニズム。
 3. 資本主義社会の発展……現代の経済問題
- 尚、授業は具体的問題について議論しながら進行する。

〔参考書〕置塩・鶴田・米田著『経済学』（大月書店）

経済原論Ⅱ

浅野 克巳

われわれの身近に生起するごく日常的な経済問題を取り上げながら、その原因および対策を考える上で、方法となるべき経済学の諸理論を、できるだけ平易に解説してゆく予定です。したがって学生諸君は、新聞や雑誌にもよく目を通し、経済社会の現代的諸問題について強い関心と興味を持たれるよう希望します。授業は必ずしも通常の順序に従って、マイクロ理論とマクロ理論に分けて進めるといった方法はとりませんが、最終的には経済学の基礎理論がマスターできるよう配慮します。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）1988年

経済原論Ⅱ

小林 進

前半でマクロ経済学、後半でマイクロ経済学を講義するが、マクロまたはマイクロ経済学とは何なのかについて、その他、詳しい講義内容については講義の中で説明するので、最初のうちはなるべく休まず出席して経済学が早くファミリアな学問になるように各自が努力してほしい。なお受講者は以下の言葉を最後まで忘れないでほしい：「努力しないものが単位を修得することは、ラクダが針の穴を通ることよりも難しい。」

〔参考書〕浅野克巳他著『エコノミックス』（成蹊堂）

経済原論Ⅱ

荒木 勝啓

経済学全般の理解に必要な基礎理論をマクロおよびマイクロの両面から解説する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）¥3,300

経済政策

石井 啓雄

この講義では、客観的過程たる経済過程と経済政策の主体たる国家の間の基本的関係をふまえつつ、第一に、資本主義社会における経済政策の展開をその発展段階と関連づけて講義する。その上で第二に、主として日本の現実によりながら、現代における経済政策の主要問題についても講義する。

講義はノートにより、口述を中心とするが、参考書・必読文献等については、最初の講義の際および講義の進行状況に応じて随時指示する。

経済政策

宮脇 孝久

我々がなにか目的をもつと、つぎにはそれをどのような方法で実現しようかと考える。経済活動でも、なんらかの目的を達成するには、現実に根ざした方策が必要となる。戦後、国家がしだいに

商学総論

大吹勝男

現代における流通・商業の諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論および商業資本の理論を講義する。

経営学総論

寺中良二

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、ソ連型中央集権の社会主義企業、ユーゴ型自主管理的社会主義企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、マルクスが十分に解明できなかった新しい社会主義社会における労働関係の展望と21世紀に多数を占める知的労働者による自主管理的経営の潮流と内容を明らかにしたい。さらに、管理論においては、ティラー、フォレット、バーナード、ドラッカーの代表作品の内容を要約的に紹介しながら、先進資本主義の独占形成期に成立した管理技術の本質と変遷、管理社会における人間の状況認識、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つればと思う。尚、経営の国際化に対応して、専門用語（経済英語・経営英語）の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

経済にしめる比重をたかめるにつれ、経済政策もおおいに注目されてきた。だから、その対象はかなり大きな経済単位となる。そのうえ国家には大企業や中小企業、労働者、消費者の団体など、さまざまな利害グループがからんでいる。したがって、誰が、何のために、どのようなやり方で、という見方も欠かせない。

講義では、戦後の日本経済の変化をふまえ、もっとも特異な産業政策を中心にして、独禁政策、景気対策、貿易政策などにも注意をはらいながら、考えていきたい。

〔教科書〕北田芳治編『貿易摩擦と経済政策』

（大月書店）¥2,800

〔副教科書〕北田芳治・相田利雄編

『円高不況下の日本産業』（大月書店）
¥2,300

〔参考書〕林直道著『現代の日本経済』

〔第5版〕（青木書店）¥1,800

経済史

安元稔

今年度の講義の前半では、まず「経済史」とは何か、何を研究対象とし、如何なる方法で分析するのかについて考え、「経済史」という学問がどのように発展して来たのかを講義する。次いで、ヨーロッパと日本およびその他の地域の経済発展の相違を概観し、ヨーロッパ経済史を学ぶ意義を考える。最後に産業革命と工業化社会の成立がわれわれにとってどのような意味をもつのかをみて行く。

〔教科書〕堺憲一著

『あなたが歴史と出会うとき』

（名古屋大学出版会）¥2,000

経済史

殿村晋一

資本主義経済の生成・発展が最も典型的な展開をみせたといわれるイギリスを中心に「産業革命」の歴史的意義について学習をふかめる。前半は綿業・石炭・鉄鋼業など各産業における技術・経営・労働等の変化について学び、後半はその社会的影響について幅広く勉強していきたい。

〔教科書〕永田正臣編著『産業革命と労働者』

（ミネルヴァ書房）¥2,600

〔参考書〕その都度指示したい。

2 年次選択科目

統計原論

吉野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に当て、現実の経済現象から採られた経済データを用い、経済分析との接合に意を尽したい。いわば数量的経済分析の基礎ともいうべき内容を解くことになろう。『白書』類や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば、本講の目的の一部は達成されたといえるであろう。〔教科書〕『現代統計解析』（芦書房）

簿記論

島崎 規子

簿記の範囲は、きわめて広範囲でかつ複雑であることは周知のとおりである。そこで本講義では、前期は複式簿記の基礎知識に重点をおき、後期は、これらを応用した具体的な問題を中心に取扱い、これから簿記検定を受験する者や、経理で活躍しようとする者にすぐ役立つよう体系的に講述する。講義の大筋は、次のとおりである。

- 〈前期〉—基礎編—①現金預金取引、
②有価証券取引、
③債券・債務取引、
④手形取引、
⑤商品売買取引、
⑥特殊商品取引、
⑦固定資産取引、
⑧損益取引

- 〈後期〉—応用編—①決算、②株式会社社会計、
③本支店会計

〔教科書〕開講時に発表する。

財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部の他、法学部の商法専攻者、その他の学生の履修を期待している。

憲法

斉藤 寿

この講義は、憲法の「しくみ」と「はたらき」について、経済学部の学生向きに、興味深い講義を続けながら、楽しく行ないます。

前期には、「人権の「しくみ」と「はたらき」」について、後期には、「統治の「しくみ」と「はたらき」」について、講義します。

これらの前・後期の講義は、一年を通じて、極めてユニークに、そして楽しい雰囲気の中で行なわれます。

〔教科書〕拙著の中から、開講の際、選択・指示します。

民法一部

林 幸司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」（いわゆる担保物件法を含む）を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密着しているか」を実感できるように留意し、『鵜呑み』で

はなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

3・4年次選択科目

経済学史Ⅰ

福原好喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。

経済学史Ⅱ

有井行夫

今日の経済理論にただようある種の無力感は、あらゆる意味で資本主義が爛熟しているにもかかわらず、そこからの現実的出口をマルクス経済学も近代経済学も有効に示していないことによっています。「経済の政治化」と「自然の有限化」とを現代の2大制約ととらえ、これを解決する経済学の可能性について、経済学のよってたつ社会システム観の射程をふりかえることからとらえなおしてみます。内容は以下のとおり。

第1章 経済学史の意義——現代経済学の課題と理論の「色眼鏡」の機能

第2章 対象としての市民社会の特殊的性格

第3章 理論「色眼鏡」の3つのパターン

第4章 ヘーゲルからマルクスへ

第5章 矛盾論的システムとしての『資本論』の世界

第6章 マルクス体系の「色眼鏡」チェンジ——ヒルファディングとソビエト経済学

第7章 限界革命論の社会システム観

第8章 現代資本主義論争の基本的性格

〔参考書〕有井行夫著

『マルクスの社会システム理論』

(有斐閣) ¥5,000

但し、やや高価なので、興味がもてた人だけが、その時点で購入すればよい。試験には全くかわりません。

価格理論

荒木勝啓

次の順に講義を行なう。

1. 産業連関表を用いた価格決定のしくみ

2. 2部門モデルを用いた「価格と分配」

3. 市場経済のしくみ

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』

(成蹊堂) ¥3,300

国民所得論

吉野紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

景気変動論

西村允克

景気循環とは、全体としての経済が「好況」と「不況」という2つの現象を交替的かつ周期的に繰り返すことである。この現象を理論的、歴史的、

統計的に説明することが、景気変動論の内容である。現代の景気変動論では、景気変動をGNPの変動として把握するから、講義はマクロ経済学の基礎を簡単に述べ、この基礎の上に主要な景気変動理論を述べていく。

講義は基礎的な考え方に重点を置いて進められるから、この点をしっかり把握すれば、講義内容は極めて平易なものであるが、この点の把握が十分でない、講義はむずかしいと感じるであろう。

日本経済史

木村 健二

幕末の開港以降、日本経済は世界資本主義のインパクトのもとで、近代化の道を邁進していった。しかしその道は決して平坦ではなく、しかも太平洋戦争の敗北へと帰結することになる。本講義では、この近代化の過程で切り結んだ対外経済関係、中でも国際的人口移動の誘因、諸結果に焦点をあて、現代日本が直面する国際関係のあるべき姿を考察していきたい。

テキストは追って指示する。

経済地理

上坂 修夫

経済地理は、経済諸現象の地域的分析を行う学問である。この講義では、経済現象をいかに地域に即して見るか、また、各地域をいかに全体の経済的構造の中で捉えるかという目を養うことをめざしながら、具体的な各地域の経済的变化と現状の分析を通じて経済現象の地域的構造について学習していく。特定のテキストは使用しないが参考文献についてはその都度指示する予定である。

国際経済論

鄭 章 淵

今日の国際経済の特徴を一言で表すと、ヒト、モノ、カネの「グローバリゼーション」と言えよう。こうした事態は、多かれ少なかれ歴史的にも確認できるが、一個の有機体としての「国民経済」の存在を前提に、その「間」のモノ（貿易論）とカネ（国際金融・投資論）の動向を分析対象とする従来の国際経済学の枠組では必ずしも十分に捉え切れないように思われる。

以上の問題意識から本講義では、前半は国際経

済の歴史および理論、後半は「南北問題」、「多国籍企業」、「国際労働力移動」、「NIES」等、現代国際経済における主要現象についてそれぞれ取り扱う予定である。

参考文献については講義内容ごとにその都度紹介する。

農業政策

浅田 喬二

本年度は旧植民地（台湾、朝鮮、「満洲」）における日本人大土地所有の検討を行なう。日本人地主は植民地農村の民族的・階級的支配者であり、また、日本帝国主義が植民地を支配するための社会的支柱であった。講義の重点を、（イ）日本人の地主化過程、（ロ）小作制大農場の経営内容、（ハ）日本地主制の植民地型の特質、（ニ）日本農業と植民地農業の関係、（ホ）日本ファシズムと農業・農民問題、（ヘ）満洲農業移民論、の解明に置く。

参考文献は講義の最初の時間に知らせる。

〔教科書〕浅田喬二著『増補 日本帝国主義と旧植民地地主制』（1989年）¥4,000

工業政策

大林 弘道

日本の工業経済および工業政策を中心に、具体的に講述する。

〔教科書〕通商産業省調査統計部編『新版 我が国産業の現状』（通商産業調査会）¥2,987

〔参考書〕小宮隆太郎その他編『日本の産業政策』（東京大学出版会）

財 政 学

西 村 紀三郎

現代のもろもろの財政問題打開の処方箋を書くための論理を具体的な状況理解の下で考えたい。そのために、

- (1) 財政学の発展過程を概説し、その間の財政問題を解説して、財政学が当面している諸問題を提示する。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、原則、法則等を概説し、その現代的意義を検討する。原理は今も妥当か。
- (3) 財政活動の理論的整理把握のため、財政の現実体の理解を図る。財政の制度、歴史、現状等を解説する。
- (4) 財政の理論、制度、歴史、実体の理解にもとづいて財政政策の課題を求める。財政再建は政策課題か。
- (5) 財政再建が唱えられてから久しい。財政再建とはどのような財政政策の課題なのだろうか。

〔参考書〕肥後和夫編『財政学要論』〔第3版〕
（有斐閣）
西村紀三郎著『財政学新論』
〔第三増補版〕（税務経理協会）

財 政 政 策

里 中 恆 志

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。近代経済学の発展とともに、財政学にもそれをとり入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてこれに基づく財政政策は重要な経済政策の一つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその理論を検討するとともに、公共支出政策、公共収入政策についてそれらの基本的な理論及び基準を紹介し、現実の政策に対する判断力を養う。また国民が財政政策の意志形成に参加する方法は民主主義的手続をとおしてであるから、適切な政策の実現のために国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について考察する。

〔教科書〕講義案による。授業始めに指示する。

金 融 論

洪 谷 隆 一

金融論は、信用論を基礎としながら、資本主義の発展段階に応じて信用形態、制度、政策がどのように変化するかを究明する学問である。

本年度は、金融制度を取り上げる。

前期は銀行業務を、後期においては日本の金融制度の展開過程を、それぞれ中心に講義を進めてゆく。

〔教科書〕教場で指示。

国際金融論

斉 藤 寿 彦

外国為替および国際通貨の理論と歴史と現状を中心として講義する。講義の内容は次のとおりである。

I. 外国為替論

1. 外国為替の仕組（外国為替の定義と種類、外国為替銀行の業務）
2. 外国為替相場論（外国為替相場論の成立と展開）

II. 国際金融市場論

1. 国際金融市場の機構
2. 各国際金融市場の構造

III. 国際通貨論

1. 国際通貨の理論
2. IMF体制の成立と旧IMF体制の崩壊

IV. 日本の国際金融の歴史と現状

1. 日本の国際金融の歴史
2. 日本の国際金融の現状

〔参考文献〕追って指示する。

銀 行 論

本 間 靖 夫

1. 銀行論の対象と方法
2. 貨幣の理論と歴史
3. 近代的銀行の成立
4. 信用貨幣論
5. 銀行資本の形成と運動
6. 銀行制度論
7. 中央銀行論
8. 金融市場と金融政策
9. 銀行経営の理論と実際

社会政策

光岡博美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から解明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』

(有斐閣) ¥1,700

車戸 實編『中小企業論』

(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』

(各年次)

人口論

森岡仁

経済学の立場から人口に接近しようとするのがこの講義の特徴である。現実の経済と人口との関係は歴史的にみて人類がこの地球上に出現した時期にまで遡りうるわけで、従って経済学において

も非常に早い時期から人口が論じられてきた。この講義では日本を含む世界全体の人口について、古くは人類の起源から、新しきは現在われわれの眼前に展開する人口現象(たとえば人口高齢化現象)にまで論及し、その間、学としての経済人口学がどのような発展過程をたどってきたかを詳論する。そして最後に、以上の議論をふまえて人口政策を論ずる。

〔教科書〕大淵 寛・森岡 仁著『経済人口学』

(新評論) ¥2,800

教育経済論

谷敷正光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は戦後全体を、朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。授業中必要な資料を配布する。

〔教科書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』(東大出版)

〔参考書〕高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

石井公一郎著『経営者からの教育改革案』(築地書房)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』

(三和書房)

『中教審と教育改革—財界の教育要求と中教審答申—』(三一書房)

『産業教育百年史』(ぎょうせい)

日本経済論

森 武 磨

日本経済の歴史と現状を明らかにする。1930年代の国家独占資本主義への移行、戦後改革と資本主義の再編、1960年代の高度成長、1973年石油危機以降の低成長の過程を追いながら、現代資本主義の歴史的構造的な性格を考察する。これによって輸出依存型経済と貿易摩擦に象徴される現代資本主義の強さと弱さ、労働者や農民の生活変化、および国家権力の変化がどのようなものであるか、できる限りわかりやすく説明してみたい。

アジア経済論

小林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。Ⅰ. 賠償過程
Ⅱ. 借款過程 Ⅲ. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

中国経済論

小 杉 修 二

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』

(龍溪書舎) ¥3,000

アメリカ経済論

瀬戸 岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカ的生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生は出席を遠慮されたい。なお一層ふかめて学習したい諸君には、私担当の原書講読をあわせて受講するようにすすめる。

ヨーロッパ経済論

清 水 卓

米ソ両超大国の覇権の確立、東西ヨーロッパ分割、戦争による荒廃、植民地支配の終焉。これは、近代世界の指導者を自認してきたヨーロッパが第二次大戦後に直面した現実であった。ヨーロッパの「衰退」を阻止し、主体性を強化しようとする欧州統合運動は、アメリカによるマーシャル援助を画期とした経済成長の開始の中で、E C S C次いでE E C結成へと結実する。1970年代以降の経済危機の中で、一時停滞した統合への歩みは、80年代に入ると共に再び加速する。1992年E C市場統一への動きは、既に世界経済に大きな影響を与えている。E C諸国を中心に、現代ヨーロッパ諸国の経済の変動と実態の解明を試みる。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第12次五ヵ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕講義の中で指示する。

商業政策

岩 下 弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕未定

〔参考書〕その都度指示する。

マーケティング

曾 我 信 孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような

な影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労の消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。

〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

貿易論

古沢 紘造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済関係について取り上げ、日本と世界（欧米、第三世界）の経済的かわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

貿易実務

太田 正孝

本講は海外直接投資とともに、今後とも日本経済を支える重要な柱である国際貿易活動の実務的知識を身につけることを目的としている。貿易契約の成立と契約履行に至るまでの流れ、さらにそれに伴う様々な手続き

（保険・運送・外国為替・コミュニケーション）について輸出入両面から包括的な検討を加える。

〔教科書〕浜谷源蔵著『貿易実務入門』（同文館）
¥2,000

伊東克己他著『Overseas Business and Communication』（英潮社新社）
¥1,400

〔参考書〕朝岡良平著『貿易売買と商慣習』（第三版）（東京布井出版）

証券市場論

澤田 精次

証券市場を広く金融市場の一環として捉え、そ

の経済的役割、仕組み、歴史などを、国際的観点を変えて考究する。

〔参考書〕『図説 日本の証券市場』

（財経詳報社）¥1,500

『東証要覧』（東京証券取引所）

¥620

保険論

石名坂 邦昭

保険はわれわれの経済生活になくってはならない経済施設であり、その歴史は古く、企業活動や家計経済と深く結びついている。保険は企業危険の移転策として、機関投資家として、さらには家計の安定をはかるものとして広く活動している。本講義においては保険の本質、保険の意義、保険の歴史を把握し、さらに生命保険、損害保険、社会保険等につきわしくみて行くことにより経済学の一分科としての保険、さらには経営学の一分科の保険を明確にして行きたい。

〔教科書〕姉崎 他著『講案保険総論』

（法律文化社）¥2,200

交通論

石井 彰次郎

交通の概念より始めて、資本主義経済の下における交通をめぐる諸問題の理論的・歴史的解明をする。

〔教科書〕講義において指示する。

商品学

石崎 悦史

商品の競争という視点から商品学の新しい体系化を試みる。特に商品のデザインやパッケージやブランドがもつ情報発信力に注目し、価格競争以外にも商品の競争要因はあり、それらが複雑にからみあって、我々の目前に具体化している現象を本質的に分析していきたい。したがって講義は我々が日々生活しているなかで目にしていく諸現象を理論的に解明していくことを目的としているので、学生諸君の意見も発表してもらい機会を多くし、意見交換をすることによって、「当たり前」と考えられていることを再考するつもりである。企業の商品戦略についても関心を持ち、使用対象

の提供と利益追求の二重性の意味を考えたい。
〔教科書〕河野五郎著『使用価値と商品学』
(大月書店) ¥2,000

経営管理論

百田 義治

経営管理は、企業規模の拡大と経営の複雑化を背景に発現したものであり、今日、資本主義社会においても、社会主義社会においても、その機能内容・役割に相違があるとはいえ、企業経営に不可欠の機能である。このような企業における経営管理の機能およびその制度化の理論的体系化は19世紀末葉のアメリカに始まり、世界各国に普及してきた。我国の場合もアメリカにおける研究・理論に導かれ展開されてきた。前期は、かかる経営管理に関する主要な理論を歴史的発展系譜にそって検討する。後期は、現代企業の主要な経営管理の諸問題(経営の国際化、先端技術開発と企業経営、能力主義管理、日本的経営など)を取り上げ具体的に検討する。

〔教科書〕未定

〔参考書〕随時紹介。

労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1)(2)(3)』

(中央経済社) 各¥2,800

財務管理

野口 祐

開講時に指示する。

原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』(原価計算制度)の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』

(東大出版会)

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』

(中央経済社)

会計監査論

飯岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕飯岡 透著『株式会社会計監査論』

(創成社)

〔参考書〕飯岡 透編『会計監査基本規則集』

(創成社)

管理会計論

中原 章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえで成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入って行く。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の

産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著

『企業付加価値計算書の研究』

(白桃書房) ¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著

『経営財務と管理会計』(中央経済社)

税務会計論

市川 深

税務会計論という文字からは、ほのぼのとしたメルヘンもロマンも思い浮かず、誰しも毛嫌いしがちであります。しかし、将来企業経営に携わる人はもちろん、そうでない人でも、税とのかかわりなしに生きられませんし、そのかかわり方によっては、税に無知のために一生に一度や二度呻吟させられることも少なくありません。

本講義では、税法についての大綱を日常生活に関連させ、わかり易く、興味深く展開するようにします。最初は個人に課せられる税、ついで企業に課せられる税について学びます。

税務会計論の講義をとおして、学問と芸術を愛する心が皆さんに醸成されることを念じています。

〔教科書〕市川 深著

『法人税重要判例コメンタール』

(税務経理協会) ¥3,500

〔参考書〕講義の都度指示します。

民法二部

水辺 芳郎

民法二部では、債権法を講義内容の中心とする。債権法は、売買・金銭貸借・賃貸借・請負・委任・和解などの諸契約、交通事故・公害などの不法行為といった債権の発生原因と、発生した債権はいかなる効力をもち、その目的達成の手段、あるいは保証・連帯債務などの人的担保制度などを規定している。これらは、私生活における社会規範として日常的な現象に関係しているので講義にあたっては、具体的事例を多く引用し、債権法の内容を身近なものとして理解できるよう解説する。

なお、法学、民法一部を受講されていない学生もいるので、そこで触れるべき点についてもできる限り補講することにする。

〔教科書〕水辺芳郎著『債権総論第一分冊』

(法律文化社) ¥1,500

〔参考書〕講義で説明する。

商法一部

荒木 正孝

本講義の対象は、商法総則および会社法である。なかでも、現代の資本主義社会において我々国民の経済生活に大きな影響を及ぼしている株式会社の法制度に注目し、株式会社の生成、機能、構造等その私法的側面を規制する株式会社法に関する学説、判例その他経済界における種々の具体的事例を取り上げて解説をしたい。

〔教科書〕荒木正孝著『商法講義(総則・会社法)』

(成文堂)

商法二部

島原 宏明

現代取引社会における金融の用具としてきわめて重要な地位にある手形および小切手について、その法理論的な構造をあきらかにするとともに、手形・小切手をめぐる実際上のトラブルとそれに対する法的解釈を、判例等を参照しながら考察していく。なお、受講の際には必ず六法全書(小型のものでよいがなるべく新しいもの)を携行すること。

〔教科書〕高島正夫著『手形法小切手法(改訂版)』

(慶応通信)

〔参考書〕開講時に指示する。

労働法

深谷 信夫

終身雇用制、年功賃金制、企業別労働組合などと特徴づけられた「日本の労使関係」は、徐々にその内容を変化させてきている。

近年の労働政策・労働立法は、そうした方向を、行政的立法的に促進させているといえよう。男女雇用機会均等法・労働者派遣法・労働基準法改正がその代表的なものである。

講義内容は、以上のような動向を視野に入れ、労使関係と労働法、労働法の構造、集团的労使関係法と個別的労使関係法の主要問題を中心に行なわれる。

〔教科書〕未定

経 済 法

川 井 克 倭

経済法—独占禁止法を中心として—
第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法、消費者保護関連法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。消費者保護法。まず独占禁止法について講義し、後に消費者保護関係法について講義する。法学専攻者が対象ではないので、個々の条文の解釈には重点をおかずに、全体がふかんでできるようにする。

また最近でいえば、経済の国際化、日米構造問題協議等、アップトゥデートの問題を講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕特に使用しない。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

原書講読 I・II

岩 下 弘

イギリスの小売業及び小売業に対する公共政策に関する文献を講読する。

〔教科書〕その都度配布する。

原書講読 I・II

大 吹 勝 男

ホワイト・カラー労働者に関する文献を読むこととする。

原書講読 I・II

有 井 行 夫

Antony Cutler 他著, Marx's Capital and Capitalism Today, 第1巻第3章Classes and the Structure of the Social Formation を輪読しながら、マルクス経済学の歴史観の有効性について考えてみます。毎週全員にレポートを求めます。教材はこちらでコピーして配布します。

原書講読 I・II

小 林 英 夫

今年度は、Robert. A. Divine, Since 1945 をテキストに戦後の日本とアジアの経済的・政治的特徴を検討する。

原書講読 I・II

石 井 脩 二

「外国企業の日本的化」

近年の日本企業の強い競争力への関心は、その源泉である日本の管理方式の導入へと外国企業をかりたてている。いまや日本企業に学べという運動のなかでとりわけイギリスの企業は日本企業の管理方式の導入に熱心である。しかし、そのあまりにも安易な導入は、多くの失敗やあきらめを現出させていると同時に日本企業の管理方式の海外移植という問題に新たな段階をもたらしている。ここでは、日本企業の管理方式のうちどのようなものが導入されてきたのか、導入の成功・失敗の原因は何かといった問題を検討する。

〔教科書〕N. Oliver and B. Wilkinson, *The Japanization of British Industry*, Black Well, 1989.

原書講読 I・II

齊 藤 正

近年における金融自由化問題を取り扱った文献を読み、その背景と現代資本主義にとっての意味を考える。あわせて金融の基礎的理解と経済学の専門ターム(用語)の修得をめざす。

尚、テキストは適宜コピーして配布する。

原書講読 I・II

瀬 戸 岡 紘

私の主要講義アメリカ経済論の内容をアメリカ政府が公表する英文データ(*Survey of Current Business*, ほか)にもとづいて補完する。また上記講義では時間的にふれることのできないような

少々たちいった諸問題をもアメリカで発行されている英語の文献（アメリカの大学の経済学のテキストなど）や雑誌（Fortune など）を紹介することによって補足する。教材となりうる原書はきわめて多数あるので、そのなかから受講者の要望と能力を考慮して適宜選定する。英語に自信のある者も多少不安をもつ学生も、熱意さえあれば、それぞれにたのしくすすめられるものと信ずる。なお、この原書講読の性格上、アメリカ経済論と並行履修することをすすめる。

原書講読 I・II

曾我信孝

マーケティングおよび流通関係の雑誌等から適当な論文を選択して講読する。授業の方法は、授業時間のうち約半分の時間を受講者に訳してもらい、残り時間を全員でその内容についての討論を行います。したがって、討論を充分できない方、およびマーケティング、流通関係に興味および知識のない方はご遠慮願いたいと思っています。なお、文献については適宜当方で指示致しますので各人で準備していただきます。

〔参考書〕『マーケティング用語辞典』
『流通関係用語辞典』

原書講読 I・II

古沢紘造

現代アフリカの社会、経済に関する文献（英語）を輪読する。アフリカは世界で最も遅れた大陸といわれているが、「人間の生活そのものの豊かさ」からみたらどうだろうか。第三世界に対する私たちの考え方の底にある偏狭で独断的なものをみつめなおしてみたい。

原書講読 I・II

光岡博美

欧米の労働問題、労使関係論に関する文献を読むこととする。使用する文献については最初の講義で配布する。

原書講読 I・II

百田義治

現代企業の経営問題を対象とする経営学の重要な一領域である経営管理論（management theory）発展史を取り上げ、その100年の歴史の各時期における経営管理論の課題が何であったのかを学びつつ、同時に経営管理の今日的・具体的課題との関連についても考えて行きたい。

〔教科書〕教場にて、テキスト（コピー）を配布する。

原書講読 I・II

三井逸友

「国際化時代」の今日、国際共通語としての英語の「読み・書き・話す」能力はさまざまな機会に必要不可欠なものになってきている。英語の授業を8年以上も受け、難関の入試を突破してきて、どうして英語の基礎的実力が身につかないのか？コトバを単に試験のために記憶するものと考えていては進歩はむづかしい。しかし、基本的な成り立ちやルールを無視しても、英語の表現内容を理解することはできない。インチキ「和製エイゴ」の氾濫する昨今ではなおさらのことである。この授業では、実践的な「わかる」英文理解力の養成をめざして、予備校的スタイルでの解説を行っていく。なお、フリガナのある代物ではない、中級以上の辞典を持参のこと。

〔教科書〕テキストは授業の初めに相談のうえ決める。

原書講読 I・II

大石雄爾

今年度は「現代の西ドイツとヨーロッパ」をテーマとして、西ドイツの新聞記事・雑誌を読んでゆく。文法的に詳しく説明することはもちろんであるが、よく使われる表現・単語については、会話や作文にも使えるように指導するつもりである。教材は、私が準備したものを毎回渡す。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

福原好喜

カール・マルクス『資本論』（ドイツ語）を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになろう。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。（毎年夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。）

原書講読Ⅰ・Ⅱ

清水卓

ECの1992年市場統一に関する文献を仏語ないし英語で読んでいきます。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

小杉修二

経済改革、対外開放政策にとりくむ中国経済の問題点を論じた、許毅『調整期中的中国経済』を読む（中国語）。

〔教科書〕プリントして配布する。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

山縣弘志

ソ連経済に関する平易なリーダーを読む。

〔教科書〕 Вячеслав Стороженко 著, Беседы о советской экономике. Москва, 1980.

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講 I (原田 弘道)	1	国民所得論 (吉野 紀)	7
禅学特講 II (黒丸 寛之)	1	中国経済論 (小杉 修二)	7
禅学特講 III (石井 修道)	1	アジア経済論 (小林 英夫)	7
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	1	日本経済史 (木村 健二)	8
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	1	中小企業論 (三井 逸友)	8
哲学史 (中村 友太郎)	1	教育経済論 (谷敷 正光)	8
印度仏教史 (松本 史朗)	2	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	8
中国仏教史 (佐藤 達玄)	2	財務会計論 (遠藤 孝)	8
日本仏教史 (山内 舜雄)	2	管理会計論 (中原 章吉)	9
日用經典 (櫻井 秀雄)	2	会計監査論 (飯岡 透)	9
仏教美術 (中島 亮一)	2	商業政策 (岩下 弘)	9
現代哲学概説 (田島 節夫)	2	貿易論 (古沢 紘造)	9
上代文学 (小野 寛)	2	マーケティング (曾我 信孝)	9
中世文学 (水原 一)	3	原価計算論 (加藤 利安)	10
近世文学 (富士 昭雄)	3	労務管理論 (石井 脩二)	10
近代文学 (片岡 懋)	3	行政法 II (齊藤 寿)	10
中国文学 (中村 璋八)	3	民法 IV (1) (青山 尚史)	10
英文学特講 I (石原 孝哉)	3	民法 IV (2) (青山 尚史)	10
英文学特講 II (小林 亨)	3	比較憲法 (竹花 光範)	10
英文学特講 III (高野 正夫)	3	地方自治法 (梅木 崇)	11
英文学特講 IV (中岡 洋)	3	経済法 (川井 克倭)	11
英文学特講 V (高松 雄一)	4	国際関係論 (首藤 素子)	11
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	4	西洋政治史 (鬼柳 勝一)	11
英米演劇特講 (落合 和昭)	4	宣伝広告論 (上條 末夫)	11
米文学特講 I (東 雄一郎)	4	政党論 (早川 純貴)	11
米文学特講 III (山縣 敏夫)	4	経営学史 (北村 健之助)	12
時事英語 (大沢 一雄)	4	国際経営論 (武田 康)	12
地質学 (小池 一之)	4	経営統計 (後藤 儀一郎)	12
気候学 (中村 和郎)	4	保険経営論 (石名坂 邦昭)	12
人口地理学 (上坂 修夫)	5	財務会計論 (久松 治夫)	12
応用地理学 I (高木 正博)	5	経営分析論 (片桐 伸夫)	12
都市地理学 (今朝洞 重美)	5	税務会計論 (高木 克己)	12
文化地理学 (菱口 善美)	5	経営労務論 (中村 眞人)	13
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	5	商業史 (山田 勝)	13
東洋史特講 X (近・現代) (渡辺 惇)	5	国文講読 I (上代) (佐原 作美)	13
西洋文化史 I (椽川 一朗)	5	国文講読 II (中古) (鈴木 儀一)	13
考古学特講 III (飯島 武次)	5	国文講読 III (中世) (岡崎 正)	13
歴史哲学 (大石 紀一郎)	6	国文講読 IV (近世) (清田 啓子)	13
哲学史 (丸山 豊樹)	6	国文講読 V (近・現代) (大室 英爾)	13
日本民俗学 (谷口 貢)	6	国文講読 V (近・現代) (田澤 英藏)	14
マスコミュニケーション (川本 勝)	6	国文特講 V (近・現代) (尾形 国治)	14
産業社会学 (安藤 喜久雄)	6	英文タイプライティング II (竹内 美恵子)	14
都市社会学 (文屋 俊子)	6	時事英語 (岡本 誠)	14
社会福祉発達史 (林 千代)	7	計算機言語概論 (杉田 徹)	14
ソビエト経済論 (山縣 弘志)	7	臨床放射線特論 I (本間 襄)	14
社会政策 (光岡 博美)	7	応用計測学 (樞尾 英次)	14

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典觀と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禅師の名著『正法眼蔵』を『永平広録』その他の著述との関連によって講読する。この講座では、必修科目としての『正法眼蔵』の講義内容とは異なり、出来るだけ多くの諸巻について、それぞれの撰述意義を学ぶことを目的とするので、1年間に20巻前後の解説を予定している。

禅学特講Ⅲ

石井修道

『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張を明了である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔教科書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P.411～P.445 までをコピーすること。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性的立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史

という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕教場で指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

印度仏教史

松本史朗

インド仏教史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

〔教科書〕『仏教史概説』（平楽寺書店）

〔参考書〕平川 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

奈良康明著『仏教史Ⅰ』（山川出版社）

中国仏教史

佐藤達玄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

日用經典

櫻井秀雄

曹洞宗常用經典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕櫻井秀雄著『曹洞宗回向文講義』

『続曹洞宗回向文講義』

仏教美術

中島亮一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレイゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の視点を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』

（世界書院）¥2,500

上代文学

小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』

(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上
代文学史』(笠間書院)

中 世 文 学

水 原 一

鴨長明作『発心集』を読んで、仏教説話の意義に触れ、作者の人物像について考える。

〔教科書〕三木紀人著『方丈記・発心集』(新潮
日本古典集成)(新潮社)

近 世 文 学

富 士 昭 雄

『猿蓑』の連句の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。また影印本の読解に習熟する。

〔教科書〕(影印本)『猿蓑』(武蔵野書院)
¥620

近 代 文 学

片 岡 懋

島崎藤村と田山花袋の作品を中心に、明治20年代中葉以後の文学の展開の相を考察する。

中 国 文 学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版)¥2,000

英文学特講 I

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』(三修社)

英文学特講 II

小 林 亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

高 野 正 夫

詩が読者を失ってから久しいと言われているが、このような傾向に抗してイギリス的な詩の復興を唱えた、1950年代の‘The Movement’の詩人を中心に論じていく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学特講 IV

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高松 雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。

〔教科書〕開講時に指示する。

英文学特講VI

丸小 哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の意義と快楽を目指します。

〔教科書〕適宜、プリントを配布します。

英米演劇特講

落合 和昭

今年度は、悲劇、メロドラマ、喜劇における構成要素を考察する。そのうち、現代演劇の思潮について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が数多くのっているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としては、レポートを十回（一回につき、原稿用紙一、二枚程度）を提出してもらう。

米文学特講I

東 雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の

内向性と開拓者精神の外向性を常に偏在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

米文学特講III

山縣 敏夫

20世紀アメリカ文学、特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ、社会的変遷とのかかわりあいについて研究する。

時事英語

大沢 一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

地質学

小池 一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』（東大出版会）¥3,400

〔参考書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）各¥3,400

貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,200

気候学

中村 和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気

候学の基本的諸概念と研究方法，世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治著

『日本の気候』（岩波書店）

人口地理学

上坂修夫

人口現象は，社会地理，歴史地理，経済地理などの重要な構成要素であるが，それは単に量として捉えるだけではなく，質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では，人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに，いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え，人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

応用地理学 I

高木正博

河川と地域の関係を，災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて，地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』

（大明堂）

山田安彦編著『地域の科学』

（古今書院）

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか，日本，外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』（大明堂）

文化地理学

菱口善美

本講義では，まず文化地理学の中心的課題，す

なわち(1)文化，(2)文化領域，(3)文化景観，(4)文化史（誌），(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら，文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡辺惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として，秘密結社（会党・帮会）をとりあげ，その発生，発展，組織の特色，時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介，指示する。

西洋文化史 I

椽川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を，社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』

（吉川弘文館）¥2,900

考古学特講Ⅲ

飯島武次

夏殷周文化の考古学的研究。

歴史哲学

大石 紀一郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことにする。

〔教科書〕参考書等は講義のなかで指示する。

哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世との哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

〔教科書〕安藤久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社刊）

都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』

（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、

『リーディングス日本の社会学7 都市』

（東京大学出版会）¥2,500

『リーディングス日本の社会学5 生活構造』

（東京大学出版会）¥2,500

などが適切かと考えている。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第12次五ヶ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕講義の中で指示する。

社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

国民所得論

吉 野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

中国経済論

小 杉 修 二

現代の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設』

—超大国志向・低開発経済・社会主義—
（龍溪書舎）¥3,000

アジア経済論

小 林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。I. 賠償過程 II. 借款過程 III. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

日本経済史

木村 健二

幕末の開港以降、日本経済は世界資本主義のインパクトのもとで、近代化の道を邁進していった。しかしその道は決して平坦ではなく、しかも太平洋戦争の敗北へと帰結することになる。本講義では、この近代化の過程で切り結んだ対外経済関係、中でも国際的人口移動の誘因、諸結果に焦点をあて、現代日本が直面する国際関係のあるべき姿を考察していきたい。

テキストは追って指示する。

中小企業論

三井 逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から説明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』

(有斐閣) ¥1,700

車戸 實編『中小企業論』

(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

教育経済論

谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は戦後全体を、朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、

教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。授業中必要な資料を配する。

〔教科書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』(東大出版)

〔参考書〕高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

石井公一郎著『経営者からの教育改革案』(築地書房)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』(三和書房)

『中教審と教育改革—財界の教育要求と中教審答申—』(三一書房)

『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカ的生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて説明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生は出席を遠慮されたい。なお一層ふかめて学習したい諸君には、私担当の原書講読をあわせて受講するようにすすめる。

財務会計論

遠 藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をは

たしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部その他、法学部の商法専攻者その他の履修を期待している。

管理会計論

中原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別

財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕飯岡 透著『株式会社社会会計監査論』（創成社）¥3,000

〔参考書〕飯岡 透編『会計監査基本規則集』（創成社）¥800

商 業 政 策

岩 下 弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕未 定。

〔参考書〕その都度指示する。

貿 易 論

古 沢 紘 造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済問題について取り上げ、日本と世界（欧米、第三世界）の経済的かわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

マーケティング

曾 我 信 孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。

したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。
〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心に、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』（東大出版社）

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』（中央経済社）各¥2,800

行政法 II

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法 I・II』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法 IV (1)

青山 尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

民法 IV (2)

青山 尚史

民法IV-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

比較憲法

竹花 光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原理、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経 済 法

川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他の私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕特に使用しない。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係

について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

〔参考書〕細谷千博・臼井久和編

『国際政治の世界』

〔増補改訂版〕（有信堂）¥2,800

西洋政治史

鬼 柳 勝 一

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義は、受講生各自の関心を基礎に、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕講義進行の都度列挙する。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の間をどう調整していくべきか、という問題を説明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

早 川 純 貴

本年はドイツの政党政治に焦点を当てる。すなわち、ワイマール期の多党制の限界とナチズムの問題。戦後西ドイツにおける二大政党（CDU・SPD）の発展と包括化過程、そして近年の「緑の党」進出に見られる新しい政党と既存の政党と

の対立・連合の動き、等である。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

経営学史

北村 健之助

ドイツ経営経済学（前史，成立，1・2・3・4次方法論争，現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管理，科学的管理法，管理過程論，行動科学的展開）等々の発展過程を現代経営学を軸に探り，経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト，参考書は一応下記に示しましたが，必要があればその都度他の参考書もお薦めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』（学文社）

国際経営論

武田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき，直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに，日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し，総合商社をはじめ，日本型国際経営の特質の解明を内容とする講義とする。

〔教科書〕武田 康著『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）¥2,900

経営統計

後藤 儀一郎

統計学，特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものでない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計的品質管理，時系列分析，線形計画等）されるかを，学習する。

〔参考書〕吉野・後藤著『現代統計解析』

（芦書房）¥2,700

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日，日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり，一方国内の個人消費，住宅投資，設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から，リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

久松 治 夫

外部報告会計としての財務会計を研究する場合，わが国の財務会計を規制する2つの基本的規則，すなわち，「財務諸表規則」と「計算書類規則」に関連させつつ，財務会計の基礎を把握することが必要であり，このため，本年度の講義は下記の教科書を使用し，財務会計の基本問題について講述する予定である。

〔教科書〕山形休司著『財務会計総論』（中央経済社）¥2,300

〔参考書〕開講時に指示する。

経営分析論

片桐 伸 夫

経営分析の方法を大略，以下の要領で講義する予定ですが，特に伝統的，基本的方法である収益性，流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で，一生逃れる

ことが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中村 眞人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』を対象として講読を行なう。
〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』
(桜楓社) ¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 儀一

『清少納言枕草子』を読む。平面的解釈にとどまらずに、時代・社会の背景をも講述し、生き生きとした人間像をさがし求めて見たい。
〔教科書〕田中重太郎著『校注・枕草子』
(笠間書院) ¥1,300
〔参考書〕適宜に指示する。

国文講読Ⅲ（中世）

岡崎 正

中世室町期に完成した演劇である能の詞章「謡曲」を読む。「謡曲」は先行文芸の粋をあつめ、そして後代文芸に大きな影響を与えた。いわば日本詩華の集散地のような位置にあった。謡曲を読むことによって劇文芸（戯曲）としての構造や、その文芸的価値を探る。

〔教科書〕増田・小林・羽田編
『能一本説と展開一』（桜楓社）

国文講読Ⅳ（近世）

清田 啓子

近世怪異小説の白眉とされる『雨月物語』を読む。読本の発生と展開を見、作者秋成の果たした役割を見定めたい。

〔教科書〕水野稔校注『雨月物語』（明治書院）
¥1,300

国文講読Ⅴ（近・現代）

大室 英爾

近代詩のなかから主に透谷、藤村、独歩、晚翠、泣菫、有明らの作品を取りあげる。作品を丹念に読み、詩史上の流れや傾向を検討しつつ鑑賞を深めたい。

〔教科書〕各種文庫及びプリントを使用。授業開始時に指示。

国文講読V (近・現代)

田澤英蔵

森鷗外の作品を読む。鷗外の文芸における嘗為の大略を知るために、最初の契機となるような作品について講ずる。

〔教科書〕重松泰雄編『森鷗外』(桜楓社)

その他のものは開講後に指示する。

国文特講V (近・現代)

尾形国治

明治期の作家としては、坪内逍遙、二葉亭四迷、森鷗外、北村透谷、島崎藤村、夏目漱石、大正期では有島武郎、芥川龍之介などの代表作を読む。現代の作家では井伏鱒二、三浦哲郎のほか、戦後生まれの宮本輝、村上春樹、村上龍などを予定している。数少ない作品をじっくりと読んでみたいと考えている。

プリントを用意する。

〔教科書〕各種文庫本

英文タイプライティングII

竹内美恵子

キーボードのブラインド・タッチを習得していることを前提として授業をすすめます。おもにレター、各文書をスピーディに処理できることを学びます。

細かい内容は教場で説明します。なお、授業では基礎実技の指導はいたしません。

時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論

2. BASIC 言語

3. パーソナルコンピュータ (PC-9801) による実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』

(サイエンス社) ¥1,700

臨床放射線特論I

本間襄

医療特に臨床にかかわる者の常識として、また医療人相互のコミュニケーションと診療録の内容を理解するのに欠かせない外来医学用語・技術用語・略称について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

応用計測学

櫃尾英治

X線CT装置、MRI装置および核医学装置(ガンマカメラ、シングルホトンCT、ポジロンCT)を中心とした医用機器のハードウェア、ソフトウェアについて概説する。また、超音波装置、CRならびにPACS等についても講述する。

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。

(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(磯野 昌蔵).....	1
教育原理(上岡 安彦).....	1
教育原理(北村 三子).....	1
教育原理(坂本 信昭).....	1
教育原理(村山 輝吉).....	1
教育心理学(大浜 幾久子).....	1
教育心理学(改田 明子).....	2
教育心理学(国眼 眞理子).....	2
教育心理学(中村 均).....	2
教育心理学(難波 和明).....	2
青年心理学(大浜 幾久子).....	2
青年心理学(川田 三夫).....	2
青年心理学(岸本 弘).....	2
青年心理学(牟田 悦子).....	2
特別活動(中野目 直明).....	3
生活指導(佐藤 尚人).....	3
宗教科教育法(桜井 秀雄).....	3
国語科教育法(神谷 道倫).....	3
書道科教育法(谷村 義雄).....	3
英語科教育法(大沢 一雄).....	3
社会科教育法(川合 元彦).....	3
社会科教育法(中島 義一).....	4
社会科教育法(野呂 肖生).....	4
社会科教育法(長谷部 八朗).....	4
社会科教育法(谷敷 正光).....	4
社会科教育法(大久保 治男).....	4
社会科教育法(橋爪 敏).....	5
職業科教育法(谷敷 正光).....	5
商業科教育法(谷敷 正光).....	5
道德教育の研究(上岡 安彦).....	6
教育実習(上岡 安彦).....	6
教育実習(北村 三子).....	6
教育実習(坂本 信昭).....	6
教育実習(村山 輝吉).....	6

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育史(磯野 昌蔵).....	7
教育哲学(汐見 稔幸).....	7
宗教教育(桜井 秀雄).....	7
教育社会学(熊谷 一乗).....	7
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗).....	7
教育評価(大浜 幾久子).....	7
教育情報学(難波 和明).....	8
教育調査(鈴木 規夫).....	8
教育関係法規(荒牧 重人).....	8
教育法規研究(浪本 勝年).....	8
社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵).....	8
社会教育施設(村山 輝吉).....	8

図書館学I(山崎 慶子).....	8
図書館学II(源 昌久).....	8
児童文化(湯山 厚).....	8
青少年問題研究(和田 謙寿).....	9
視聴覚教育(赤堀 正直).....	9
教育臨床心理学(牟田 隆郎).....	9

(3) 教科に関する専門科目

【社会】

日本史概説(大久保 俊昭).....	9
日本史概説(宮本 由紀子).....	9
世界史概説(井村 行子).....	9
世界史概説(渡辺 惇).....	10
地誌学概説(今朝洞 重美).....	10
地誌学概説(長野 寛).....	10
地誌学概説(宮口 侗迪).....	10
人文地理学概説(小林 高壽).....	10
自然地理学概説(早船 元峰).....	10
民法I(林 幸司).....	10
政治学原論(上条 末夫).....	11
社会学原論(渡辺 源樹).....	11
経済原論(小野 俊夫).....	11
哲学概説(篠原 壽雄).....	11
哲学概説(國嶋 一則).....	11
倫理学概説(久保 陽一).....	11
宗教学概説(脇本 平也).....	11
宗教学概説(洗 建).....	12

【職業】

産業概説(前田 幸一).....	12
職業指導(山田 勇治).....	12
商業実習(前田 幸一).....	12

【商業】

職業指導(山田 勇治).....	12
------------------	----

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学I(山崎 慶子).....	13
図書館学II(源 昌久).....	13

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵).....	14
社会教育計画(村山 輝吉).....	14
社会教育実習(磯野 昌蔵).....	14
社会教育実習(上岡 安彦).....	14

(2) 選択必修科目

児童文化(湯山 厚).....	14
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗).....	14
成人学習論(牧野 篤).....	14

婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	15
青少年問題研究 (和田 謙寿)	15
青少年指導演習 (和田 謙寿)	15
社会教育行政 (牧野 篤)	15
社会教育施設 (村山 輝吉)	15
図書館学Ⅰ (山崎 慶子)	15
博物館学Ⅰ (倉田 芳郎)	15
博物館学Ⅱ (矢島 國雄)	16
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	16
社会体育Ⅰ (古田 潤子)	16
社会体育Ⅱ (古田 潤子)	16
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	16
教育原理	16
教育史 (磯野 昌蔵)	16
教育心理学	16
青年心理学	16
社会心理学 (坪井 健)	16
教育社会学 (熊谷 一乗)	17
教育調査 (鈴木 規夫)	17

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ (倉田 芳郎)	18
博物館学Ⅱ (矢島 國雄)	18
教育原理	18
社会教育の基礎 (社会教育概論)	
(磯野 昌蔵)	18
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	18
博物館実習Ⅰ (館務)	
(倉田芳郎・太田喜美子)	18
博物館実習Ⅱ (収集)	
(倉田芳郎・所 理喜夫・	
葉貫磨哉・太田喜美子)	19
考古発掘実習 (寺社下 博)	19
博物館実習Ⅲ (見学)	
(倉田芳郎・太田喜美子)	19

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘)	19
印度仏教文化史 (奈良 康明)	19
西洋文化史Ⅰ (椽川 一郎)	19
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄)	20
仏教美術 (中島 亮一)	20
現代美術 (宮崎 克己)	20
禅美術 (海老根 聰郎)	20
美術史概説 (中島 亮一)	20
西域美術史 (相馬 隆)	20
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎)	20
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次)	20
考古学特講Ⅰ (高浜 秀)	21
考古学特講Ⅲ (飯島 武次)	21
日本民俗学 (谷口 貢)	21
仏教民俗学 (和田 謙寿)	21
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	21

V 社会福祉主事 講座

社会福祉士基礎

社会福祉原論 (伊藤 秀一)	22
社会福祉原論 (永田 幹夫)	22
老人福祉論 (東條 光雅)	22
障害者福祉論 (原田 信一)	22
児童福祉論 (許斐 有)	22
社会保障論 (近藤 功)	23
公的扶助論 (伊藤 秀一)	23
地域福祉論 (永田 幹夫)	23
心理学 (福祉) (井上 孝代)	23
社会学 (福祉) (星野 貞一郎)	23
法学 (福祉) (小林 弘人)	23
社会福祉援助技術現場実習	
(老人福祉施設・機関等) (東條 光雅)	24
社会福祉援助技術現場実習 (障害児 (者)	
施設・機関等) (伊藤 秀一)	24

※ () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教 育 原 理

磯 野 昌 蔵

教育とはどういうことか。
中等教育の歴史と問題。
学校教育の役割。

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
(岩波文庫)

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

前半は、自分達が経験してきた学校教育の性格をより広い視野から捉え直すことをめざす。後半は、『エミール』を手掛りに、近代人の自己疎外の深さに思いを至し、ルソーとともにありうべき教育像を模索する。

〔教科書〕ルソー著『エミール』(岩波文庫)

上 ¥570, 中・下 ¥520

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、とも

に考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート

(エイデル研究所) ¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

デュエイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

(岩波文庫) ¥200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)

『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)
¥480

教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教

育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習する。また、必要に応じて、心理検査などの実習を行なう。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学

国 眼 眞 理 子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学

中 村 均

1. 発 達
子どもはどのように大人になるか。
2. 学習と学習指導
どのような仕組みで学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいのか。
3. 人 格
一人一人の違いはどうとらえればよいのか。能力と性格について。
4. 適 応
5. 学級集団
学級集団はどのような役割を果たすのか。
6. 教育評価
7. 心身障害児

教育心理学

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいた

授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本人的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

〔教科書〕磯貝芳郎・福富 護・川田三夫著『現代青年』（ブレーン出版）¥1,200

青年心理学

岸 本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕『思いやりの動機と達成動機』（学文社）¥4,300

青年心理学

牟 田 悦 子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をも

つかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学－青年心理学』（学文社）¥1,000

特別活動

中野目 直 明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

生活指導

佐藤 尚 人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕使用せず、講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

桜井 秀 雄

「宗教」の教員免許取得上、宗教教育の意義と歴史について知ると共に、宗教科の目標・教育課程・学習指導の実際について研究し、殊に、その視点を仏教におく。

国語科教育法

神谷 道 倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

書道科教育法

谷村 義 雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いただす授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探究する内容にした。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

英語科教育法

大沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような授業法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法（地理）

川合 元 彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、

学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕 随時必要に応じて指示する。

社会科教育法（地理）

中 島 義 一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科教育法

長 谷 部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらおう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕 適宜指示する。

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社

会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫著『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）

灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕 矢川徳光著『教育とは何か』（新日本出版新書）

無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科教育法

大 久 保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の

目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで目的的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状況のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

谷 敷 正 光

この免許の「職業科」（職業・家庭科）は、1958年に学習指導要領の改訂によって、「技術科」（技術・家庭科）が新設され、「技術科」が必修となり、これまで必修であった「職業科」は選択科目となり、現在に至っている。職業科目のことを昭和44年度版の中学校学習指導要領では、「農業、工業、商業、水産」と明記されていたが、昭和52年度版では、「第2章第10節に示すその他特に必要な教科」となっている。

ところで、必修を従来の「職業科」から「技術科」へ変えた際、職業科担当教員に対して「職業」免許の「技術」免許への切りかえを完全に行なわなかったため、「技術科」の教員の中には、「職業」の免許で担当している人もいる。中学校社会

科の教員採用が厳しくなっており、「職業」の免許も生きる可能性があるので、教員志望者は、「社会」と併わせて履修することが望しい。

本講は、民主的で文化的な平和国家建設のための基礎的職業教育、人格の尊厳と人間の全能力の発達を中心とした人間形成のための職業教育を中心に授業を展開する。

〔教科書〕授業で、必要な教材を配布するので特に用意する必要はない。

〔参考書〕『講座現代技術と教育 8 技術教育の歴史と展望』（帝国地方行政学会）近藤大生著『職業と教育』（福村出版）

商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保が困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている（67年11月）ので、しっかり勉強して欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸図書）¥773

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥361

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
¥350

教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

教育哲学

汐見稔幸

中学生が自分の両親と祖母をメッタ刺しにして殺害する——そういうことがどうして「可能」なのか。この子はそこまで「追いつめ」られていたのか、それともふとした気分の変化で親すらも殺せるほどに現実と非現実の境い目がアイマイになってきつつあるのか。この子の心情はうすめられた形ですべての子どものものとなっているのか。それともこの世代のこの子のようなタイプの子に特有なのか。教育は一体何をすればよいのか。—

そういうことをいっしょに考えてみませんか。12歳で自死をとげた岡真史君の詩集やさまざまなルポ・手記などを手掛りに、子どもの考現学を参加者といっしょに追求してみたいと思います。

〔参考書〕岡 真史『ぼくは12歳』（筑摩文庫）
杉本 治『マー先のバカ』（青春出版）
山崎 哲・芹沢俊介『子どもの犯罪と死』（春秋社）など。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版㈱）1985.10 ¥5,800

教育社会学

熊谷一乗

登校拒否、偏差値支配、家庭内暴力などの教育をめぐる問題は、教育と社会との密接な関係のなかで発生してきている。重要な社会問題として注目されている教育上の諸問題をどう解決したらよいか、という問題意識のもとに、教育と社会との関係、教育の社会的過程を明らかにする。講義で扱われるテーマは、次のとおりである。

①人間の発達と社会的環境 ②集団と教育 ③教育と政治・経済との関係 ④教育と地域社会 ⑤マス・メディアと教育 ⑥学校と子どもの生活
〔教科書〕熊谷一乗著『子どもの発達と社会—教育社会学の基礎』（東信堂）¥2,700

現代社会の諸問題と教育

熊谷一乗

現代の社会は、技術の革新、高度化にともなって激しく変化し、益々複雑化し、しかも緊急に解決を要する難問を次ぎから次ぎに引き起こしている。こうした社会の動向と問題は、教育の在り方に強く影響し、教育に新たな対応を迫ってくる。講義では、次ぎのようなテーマを設定して現代社会を特徴づける諸問題と教育との関係を検討する。
(1)ハイテク化と教育 (2)情報化と教育 (3)国際化と教育(4)高齢化と教育 (5)環境問題と教育 (6)人権問題と教育(7)女性の職場進出と教育 (8)競争社会（自由化）と教育(9)生涯学習社会の形成と教育改革

〔教科書〕講義要旨および資料のコピー配布。

〔参考書〕教室で指示。

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばかりから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母

・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能を取りもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』
(法政大学出版局) ¥1,300

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育関係法規

荒牧重人

現在さまざまな形態で生じている教育問題を視野に入れながら、人権としての教育という観点を基本に、憲法・教育基本法・学校教育法などの教育関係法規を概説します。学習指導要領、教科書、体罰、校則、学校事故、教育評価、研修、職員会議その他、教師になったときに直面するであろう教育法上の今日の問題も考察します。

〔参考書〕『解説 教育六法』〔1990〕(三省堂)

教育法規研究

浪本勝年

現代の学校は、公的な制度によって高度に組織化されている。したがって、学校教育をよりよく

理解するためには、教育に関する法規についての学習が不可欠となる。特に「初任者研修法」及び改正教育職員免許法が、昨年から実施され、教員養成問題は、今日、新たな困難な事態を迎えている。

この時間は、これから教職をめざす学生諸君が、ぜひとも身につけておくべき教育法規の基礎知識の修得に力点を置いて研究を進める。その際、臨教審「教育改革」関連法や教科書訴訟の判決の分析、さらには現実の教育政策の動向(中教審などを含む)にも注目しつつ学習する。したがって、結果として教員採用試験(選考)にも大いに役立であろう。

〔教科書〕(開講時に示す)

〔参考書〕全国教員養成問題連絡会編『初任者研修法と教員法』(あゆみ出版)
¥1,500

社会教育の基礎(社会教育概論)

磯野昌蔵

(P.14) 参照

社会教育施設

村山輝吉

(P.15) 参照

図書館学Ⅰ

山崎慶子

(P.13) 参照

図書館学Ⅱ

源昌久

(P.13) 参照

児童文化

湯山厚

児童文化とはなにかとか、その史的変遷とか、ないしはこれからのあり方は、といったふうに児童文化一般をではなく、現に身近にある名作物の絵本の主人公や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公

教育との関係——といった視点からとらえなおし、子どもをとりまく環境の一部をなしている文化財を見なおすいとぐちとする。

〔参考書〕『日本唱歌集』（岩波文庫）¥450
木下順二・文『かにむかし』（岩波書店）¥1,400
H.A.レイ・光吉夏弥訳『ひとまねこざる』（岩波書店）¥1,300

青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版（天志堂印刷）¥2,500

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会】

日本史概説

大久保俊昭

日本史のなかで、とくに中世・近世をテーマとして、政治史・経済史などを中心に検討してみたい。参考書等未定。

視聴覚教育

赤堀正宣

(P.16) 参照

教育臨床心理学

牟田隆郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいいたいがたい。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現してきている。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

日本史概説

宮本由紀子

通史を概観しつつ、各時代の女性の社会における地位や生き方を検討する。特に教職科目ということもあり、基礎的かつ具体的な内容に留意する。講義はノート中心とし、教科書の指定はない。

世界史概説

井村行子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界

についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学概説

宮 口 侗 廸

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本の世界にもふれる。教科書は特に使用せず、参考書は講義中に紹介する。

人文地理学概説

小 林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕長谷川典夫著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」（いわゆる担保物権法を含む）を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密着しているか」を実感できるように留意し、『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかにすることに主眼をおく。また、政治システムにおける主権者たる国民の政治参加のあり方や役割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。そのことによって、将来政治教育の一端を担う際に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義とする。

〔教科書〕加藤秀治郎著『政治学入門』（芦書房）
¥2,000

〔参考書〕上條末夫ほか著『基礎政治学』
（北樹出版）¥2,300

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経 済 原 論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解する力を養うことを目指す。

〔教科書〕開講の際に指示する。

哲 学 概 説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか

容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』〔内篇〕（中公文庫）

哲 学 概 説

國 嶋 一 則

「知ることを愛し求める」のは人間の本性であるが、これが哲学philosophiaの原義である。こんにち哲学とは、自分が生きて行くに当り最も重要なもの＝原理を探求することである。このためには、その原理がいかなるものであり、それをいかに実現すべきかが問われねばならぬ。ここに価値論が成立する。しかしこの価値論の前に、価値とはいかなる存在であるかが知られねばならぬ。ここに存在論が成立する。さらにまた存在論の前に、その存在がいかに認識されうるかが解決されねばならぬ。ここに認識論が成立する。

本講義は認識論、存在論、価値論の順に進められる。

〔教科書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

デカルト以来の主観－客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのようにみえる。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント著『道徳形而上学原論』
（岩波文庫）

ヘーゲル著『法の哲学』（中央公論社世界の名著「ヘーゲル」）、ヤメ・ペゲラー編『ヘーゲル・ヘルダーリンとその仲間』（公論社）

宗教学概説

脇 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の

成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

【職 業】

産 業 概 説

前 田 幸 一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

武藤博道・日本経済研究センター編『図説日本産業』（日本経済新聞社）

職 業 指 導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の単なる斡旋指導ではなく、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）

¥1,500

商 業 実 習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

【商 業】

職 業 指 導

山 田 勇 治

(P.12) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学 II

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂（編集）

『日本十進分類法 新訂8版』

（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年度版』

（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育実習

磯野昌蔵

実習前の準備（大学）

実習

実習後・社会教育の実際について検討（大学）

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化，地域社会と社会教育，社会教育調査とデータの活用，社会教育事業計画，学習情報の提供と学習相談，社会教育と広報・広聴，社会教育施設の経営，社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）¥2,000

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し，日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）

¥1,500

(2) 選択必修科目

児童文化

(P. 8) 参照

現代社会の諸問題と教育

(P. 7) 参照

成人学習論

牧野篤

中央教育審議会生涯学習小委員会の審議経過報告が出され，今後，教育体系全体を生涯学習体系へと再編していく基本的な方向性が示された。それは，「職業能力開発」をキーワードとし，学習・職業訓練・就労等をすべて個人の責任に還元しつつ，その成果を企業・国家へくり返すという構造をもっている。この背後には，日本の産業構造

の転換と国際的な位置の変化が存在する。この講義では、権利としての学習の思想を基礎に、今日、成人が自らの生活において学ぶとはどういうことなのかを、既述の世界的な動向を視野に入れつつ、考察したい。

- 〔参考書〕小川利夫編『生涯学習と公民館』
(亜紀書房) 1987年
ジェルピ著『生涯学習』(東京創元社)
1983年
新田照夫編『地域に開かれた学園都市』
(同時代社) 1989年

婦人問題と社会教育

矢口悦子

婦人問題の解決にむけて社会教育はこれまでどのような活動を展開してきたのか、今後何をなすべきかを明らかにしたい。特に、学習者の婦人問題への認識の深まりを軸として進められる婦人問題学習の事例を紹介する。それを通じて、皆さん自身の意識や状況についても考えていただきたいと思っている。

〔参考書〕必要に応じて提示する。

青少年問題研究

和田謙寿

(P. 8) 参照

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

社会教育行政

牧野 篤

文部省の社会教育局が生涯学習局へと改組され、筆頭部局となったように、国の教育政策全体が生涯学習体系へと移行しつつある。この講義では、戦後の社会教育行財政の基本を、憲法・教育基本法・社会教育法の三者の構造的な連関の中でとらえるとともに、生涯学習体系への移行期において、国民の学習権を生涯にわたって保障する社会教育行財政はいかにあるべきかを、考察したい。

- 〔参考書〕社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』(エイデル研究所) 1984年
小川利夫編『社会教育の法と行政』
(亜紀書房) 1987年
文部省編『我が国の文教政策』
1988年版

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』
〔講座・現代社会教育 第6巻〕
(亜紀書房)

図書館学 I

山崎慶子

(P. 13) 参照

博物館学 I

倉田芳郎

(P. 18) 参照

博物館学Ⅱ

矢島國雄

(P.18) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業は人なり」と言われます。企業が今取り組んでいる最重要戦略のひとつが「企業人教育」です。その理由は、嵐の時代ともいえる現代を生き抜く道は、人づくりなしにありえないからです。

本講義は、各種の企業のさまざまな人の育て方を、実証的に学び、学生諸君に企業の生きた姿を紹介します。

講師自身が経営教育コンサルタントとして、今実践している企業人教育の事例と理論を生かし、大学と企業の間を橋をかける講義を、討論や対話も入れて展開します。

〔教科書〕塩川正人著『MTS 総力経営』
(日本能率協会) ¥1,000

社会体育Ⅰ

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』(三笠書房) ¥980

社会体育Ⅱ

古田潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。
効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.18) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育史

磯野昌蔵

(P.7) 参照

教育心理学

(P.1・2)参照

青年心理学

(P.2) 参照

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

熊谷一乘

(P. 7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 8) 参照

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

矢島國雄

博物館は近代西欧に起源をもつ社会教育機関である。「文化」と「生涯教育」の重要性の叫ばれる今日、博物館に期待される役割は重いものがある。

本講義では「博物館とは何か」、「博物館の専門的職員としての『学芸員』の使命と役割は何か」という問題を中心的な課題とし、あわせて博物館の現状と問題点について触れながら、あるべき博物館像をともに考えたい。受講生諸君には講義と平行して、できるだけ多くの博物館を自分自身の眼で見ることを願いたい。

〔教科書〕倉田公裕著『博物館学』（東京堂出版）
¥2,500

教育原理

(P.1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

(P.14) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・所 理喜夫
葉 貫 磨 哉・太 田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行なう。30日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（財国土地理協会）

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・太 田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山の文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

印度仏教文化史

奈 良 康 明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、

他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南アジアー』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

今年は西洋文化の原点であるギリシア文化を中心に学ぶ予定である。歴史的知識を基礎に考古学、哲学思想、社会構造、経済、芸術など多面的にギリシア文化を考えて行きたい。教科書は年間2、3冊の文庫本を予定している。その都度教室で指定する。またレポートを課して教室で発表してもらおう。積極的に学習に参加してもらいたい。

仏教美術

中 島 亮 一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅美術

海老根 聰 郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）
¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。
〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年 ¥2,800

考古学特講 I

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、特に中国北方の青銅器文化に重点をおいて、これらの文化を概観する。

考古学特講 III

飯 島 武 次

夏殷周文化の考古学的研究。

日本民俗学

谷 国 貢

民族学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民族事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民族学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財

の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕 和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕 佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教の人類学序説——』（青弓社）
¥2,060

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕 仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,500

社会福祉原論

永田 幹夫

今日、国民生活の変容のなかで、社会福祉の原理や機能も変化の徴候が顕著である。本講は社会福祉の発展経過、対象、機能および方法技術を概説しつつ、社会福祉の固有性を明確にし、今日すすみつつある変化の意味するものを論証し、社会福祉の意義を理解するようにしたい。

〔教科書〕 社会福祉士養成講座①『社会福祉原論』
(中央法規出版) ¥2,500

老人福祉論

東條 光雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを

考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕 冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕 三浦文夫編『図説 高齢者白書1989』
(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 昭和63年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕 星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕 (1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

許 斐 有

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開し

てきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕古川孝順編『児童福祉論』（川島書店より平成2年度中に刊行予定）

〔参考書〕小川・大橋編『教育福祉の思想と実践』（光生館より平成2年3月刊行予定）

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開

発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）

¥2,000

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

星野 貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を目ざしたい。そこで社会学の基礎的概念を応用して現代社会における社会福祉現象を社会的に理解するための視点を涵養する。そのために、現代社会の特徴を取上げるとともに、家族福祉、組織と官僚制、地域福祉等の問題に社会的にアプローチする。

〔教科書〕教場で指示する。

法学（福祉）

小林 弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

社会福祉援助技術現場実習
(老人福祉施設・機関等)

東 條 光 雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて展開することになる。

本実習は、前年度末に学科が実施した試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、主に、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

なお、年度途中での配属実習の辞退は、原則として認めない。

社会福祉援助技術現場実習
(障害児(者)施設・機関等)

伊 藤 秀 一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、障害児・者福祉分野での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

駒沢大学の構内図

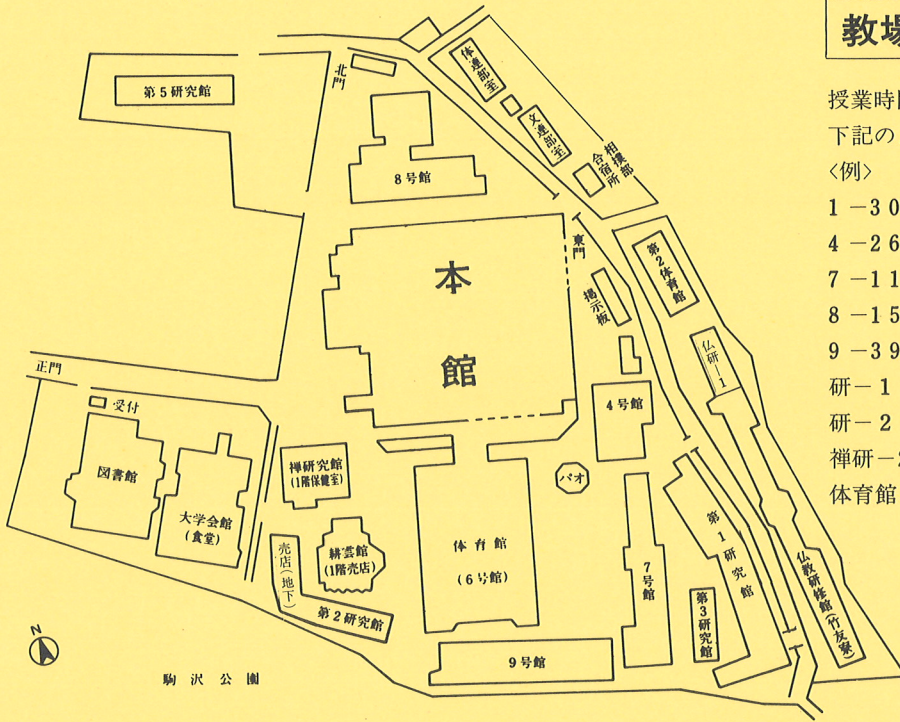
教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

〈例〉

- 1-301 本館(1号館)3階
- 4-266 4号館2階
- 7-110 7号館1階
- 8-150 8号館1階
- 9-390 9号館3階
- 研-1 第2研究館1階
- 研-2 第2研究館1階
- 禅研-201 禅研究館2階
- 体育館 体育館2階

(ただし選択種目により第2体育館になる)

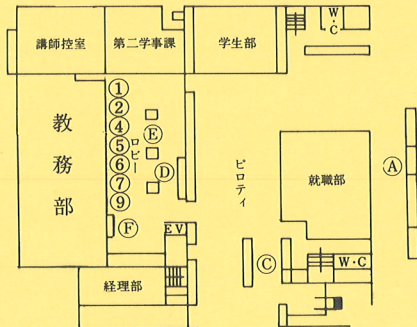


本館 1F

各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
〈健康診断書および在学証明書は学生部〉
※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡)
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更・聴講
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部



提 示

- Ⓐ第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- Ⓑ第2掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- Ⓒ第3掲示板ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- Ⓓ休講掲示板
- Ⓔ授業時間表カウンター
- Ⓕ大学院・留学生関係掲示板

